

平成 19 年 度

東北大学附属図書館

年 次 報 告



臨顧愷之女史箴卷 小林古徑・前田青邨摸

大正 12 (1923) 年、留学生として渡欧した若き日の小林・前田両人が大英博物館に伝わる晋の顧愷之の画卷を臨摸した作品。此の経験が両画伯の日本画家としての将来の方向を決めたといわれる。

平成 22 年 2 月

目 次

I. 概 要

1. 沿革（年表）	1
2. 歴代館長・副館長・分館長	7
3. 歴代部課長・事務長	12
4. 商議会商議員	15
5. 組織及び職員	16
6. 蔵書・資料費・特殊コレクション	18
7. 利用対象在籍者数	23
8. 施設	24
9. 利用者用端末台数	29

II. 活動状況

1. 一年の歩み	30
2. 所蔵冊数	35
3. 資料の収集	39
4. 電子的サービス	43
5. 開館状況	44
6. 利用統計	
(1) 入館者	45
(2) 資料の貸出	47
(3) キャンパス間資料搬送サービス	50
(4) 参考調査	51
(5) 文献複写	54
(6) 図書館間相互利用	56
7. 利用指導	57
8. 見学者等	65
9. 職員研修	66
10. 刊行物	67
11. 諸報告	68

III. 中期目標・中期計画

国立大学法人東北大学附属図書館中期目標・中期計画一覧	70
----------------------------	----

〔 I 〕 概 要

1. 沿革（年表）

明治	40.	6	東北帝国大学設置（札幌農学校を東北帝国大学農科大学として開設）
	44.	1	理科大学開設
	44.	6	附属図書館設置
		9	理科大学開講
	45.	4	医学専門部設置（前身の仙台医学専門学校は大正7.4廃止）
		〃	工学専門部設置（前身の仙台高等工業学校は大正10.4廃止）
大正	4.	7	医科大学医学科開設
		12	附属図書館医科分館設置
	5.	6	附属図書館が官制上独立の機関となり、図書館長・司書官を置く
	7.	4	農科大学が分離し、北海道帝国大学農科大学となる
	8.	4	理科大学及び医科大学がそれぞれ理学部・医学部となる
		5	工学部設置
	11.	8	法文学部設置
	13.	10	附属図書館本館書庫竣工
	14.	2	同医科分館書庫竣工
		12	同本館事務室及び閲覧室竣工
昭和	2.	3	同医科分館事務室及び閲覧室竣工
	6.	1	同医科分館に事務主任を置く
	22.	4	農学部設置
	23.	9	附属図書館に庶務受入掛、目録掛、書庫閲覧掛の3掛を置く
	24.	4	法文学部が法学部・経済学部・文学部の3学部に分立
		5	新制東北大学発足、学部は文学部・教育学部・法学部・経済学部・理学部・医学部・工学部・農学部の8学部、第二高等学校・仙台工業専門学校・宮城師範学校・同青年師範学校を包摂、研究所は金属材料研究所等9研究所（ガラス研究所は昭27.4廃止）司書官制が事務部事務長制となる
	24.	6	分校教養部設置に伴い教養部に図書掛を置く
	29.	11	附属図書館商議会設置
		〃	医科分館は附属図書館分館医学図書館と改称
	30.	4	分館医学図書館に管理掛、整理運用掛の2掛を置く
	31.	4	本館3掛から総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、書庫掛、閲覧掛の6掛となる
	32.	4	附属図書館分館医学図書館は医学部分館（医学図書館）と改称
		〃	附属図書館富沢分校分館設置
	33.	9	富沢分校が川内地区に移転したのに伴い、富沢分校分館は川内分校分館と改称、管理掛、整理掛の2掛を置く

35. 1 本館6掛から総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、雑誌掛、運用掛、書庫掛の7掛となる
- 4 文系4学部図書委員会設置
36. 3 医学部分館事務室及び閲覧室増築
38. 7 東北大学記念資料室が設置され、附属図書館の管理のもとに置く
39. 4 川内分館は教養部分館と改称
- 11 本館に学生閲覧室・書庫を増設
40. 3 医学部分館2掛から総務掛、整理掛、運用掛の3掛となる
- 4 歯学部設置
- 附属図書館に部課制施行、2課7掛となる（整理課：総務掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、閲覧課：運用掛、書庫掛、雑誌掛）
- 7 本館国連寄託図書館に指定
41. 1 附属図書館調査研究室設置
- 6 理学部に理学部中央図書室設置
42. 8 工学部に工学部中央図書室設置
43. 11 医学部分館・学生閲覧室を増設
45. 1 本館OECD（経済協力開発機構）寄託図書館に指定
- 4 工学部図書掛設置（工学分館設置に伴い、昭和53年3月をもって廃止）
47. 4 教養部分館廃止、本館に統合、2課10掛となる（整理課：庶務掛、会計掛、受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、渉外掛、閲覧課：運用掛、書庫掛、雑誌掛、参考掛）
- // 医学部分館は医学分館と改称
- 5 医学部薬学科が薬学部となる
- 9 医学分館、旧第二内科研究室跡に移転
- 10 新営本館川内地区に竣工
- 12 同本館部分開館
48. 11 同本館全面開館
49. 4 本館3課10掛となる（総務課：庶務掛、会計掛、企画・渉外掛、整理課：受入掛、和漢書目録掛、洋書目録掛、閲覧課：参考調査掛、閲覧掛、書庫掛、相互利用掛）
- // 農学部分館設置
- // 理学部図書掛設置（北青葉山分館設置に伴い、昭和57年3月をもって廃止）
51. 4 医学分館に事務長制施行
53. 4 工学分館設置
- // 農学部分館は農学分館と改称
54. 3 農学分館新館竣工
55. 11 工学分館新館竣工
56. 4 本館整理課に逐次刊行物掛を設置

57.	4	北青葉山分館設置
58.	4	工学分館2掛（管理掛、整理・運用掛）となる
	9	本館EC（ヨーロッパ共同体）資料センターに指定
	10	本館に図書館専門員が設置され、整理課に配置
59.	1	医学分館新館竣工
60.	3	北青葉山分館新館竣工
61.	4	同分館2掛（管理掛、整理・運用掛）となる
61.	10	片平地区の旧本館が改修され、記念資料室となる
	12	本館に電算機（日本電気ACOS610/10）搬入据付
62.	1	学術情報センターのコンピュータシステムと接続
	4	本館整理課配置の図書館専門員を総務課に配置換、同総務課の企画・渉外掛を廃止し、学術情報掛を設置
	5	図書館業務電算化委員会設置
	9	T-LINES（東北大学附属図書館情報処理ネットワークシステム）全面稼働
63.	1	貴重図書選定委員会設置
	4	本館整理課を情報管理課に、閲覧課を情報サービス課に課名変更
平成 元.	2	本館・新（2号）館着工
	11	本館・新（2号）館竣工
	2.	4 本館に図書館専門員が増設され、情報管理課に配置、掛の改組及び名称変更（学術情報掛をシステム管理掛に、和漢書目録掛を和漢書目録情報掛に洋書目録掛を洋書目録情報掛に、閲覧掛を閲覧第一掛に、書庫掛を閲覧第二掛に）
	5	本館・新（2号）館、開館
	3.	5 図書館広報委員会設置
	11	狩野文庫マイクロ化に着手
	4.	3 晴山文庫マイクロ化（3年計画）に着手
	5	週休二日制実施に伴う土曜日の図書館サービス開始
	5.	1 商議会組織の改組
	3	医学分館にCD-ROMサーバー設置
	//	狩野文庫マイクロ化撮影終了
	//	狩野文庫和書目録編纂終了
	4	大学院国際文化研究科、大学院情報科学研究科、大学教育研究センター、言語文化部設置
	5	川内図書委員会設置（文系4学部図書委員会改組）
	12	農学分館入退館管理システムによる土曜日の時間外開館を開始
6.	5	医学分館自動入退館管理システム設置により、24時（時間外）までの開館を開始
	11	当面の課題に関する検討委員会設置
	//	狩野文庫カラー化編集委員会設置

- 7. 2 本館総務課に課長補佐を設置、同課図書館専門員を情報サービス課に配置
- 7. 2 全学図書系掛長会議設置
 - // 工学分館増築竣工
- 3 視聴覚コーナー設置（本館2号館）
 - // T-LINES次期システム委員会設置
- 4 工学分館に工学部の学科図書室を統合
- 9 ホームページテスト運用開始
- 10 漱石文庫マイクロ化（3年計画）に着手
- 8. 3 二次資料データベースサービス開始
 - // パソコン・ラボラトリシステム設置（本館1号館）
- 4 本館夜間開館時間を1時間延長
- 11 施設の将来構想に関する検討委員会設置
- 12 T-LINES更新
- 9. 1 電子図書館システム委員会設置
 - 2 電子情報データベースサービスに関する検討委員会設置
 - フルテキストデータベースサービス（試済）開始
 - 3 図書館利用者教育支援システム導入
 - 4 工学分館に図書館専門員を設置
 - // 農学分館入退館管理システムによる日曜・祝日の時間外開館を開始
- 12 貴重書画像を電子的に公開開始
- 10. 2 漱石文庫マイクロ化・フォトCD化完了
 - 5 本館2号館への学部学生4年生の入庫を実施
 - 9 インターネットからの学内文献複写申込実施
- 12 農学分館夜間開館時間を2時間延長
 - // ホームページ改訂
- 11. 2 T-LINES次期システム検討委員会設置
 - 4 本館2号館への学部学生3年生の入庫を実施
 - 6 第46回国立大学図書館協議会総会開催
 - 7 東北大学附属図書館の将来構想に関する検討委員会設置
- 12. 2 2号館全面オープン
 - // 東北大学附属図書館の将来構想推進に関する検討委員会設置
 - 6 医学分館貴重資料室等の利用環境整備開始
- 11 附属図書館長、総長特別補佐に就任
- 12 附属図書館副館長を設置
 - // T-LINES更新（新CAT/ILLに準拠したシステム稼働）
- 13. 3 医学分館入退館管理システム更新
 - 4 情報シナジーセンター学術情報分室設置（附属図書館調査研究室を平成13年3月をもって廃止し同センター学術情報研究部に、総務課システム管理掛を同センター学術情報支援掛に転換）

- 7 附属図書館評価委員会設置
- 1 2 統合型学術情報システムの導入
- 1 4 . 2 附属図書館外部評価委員会設置
- 3 農学分館入退館管理システム更新（増強）、BDS設置
- 4 附属図書館長に研究担当副総長が就任
- // 情報管理課の電子情報掛を廃止し、総務課に情報企画掛を設置
- 5 日曜・祝日開館試行（5月19日～7月28日）
- 7 学術情報整備検討委員会設置
- 9 医学分館日曜開館開始
- 1 1 日曜・祝日開館再試行（11月3日～3月30日）
- // 附属図書館長に教育担当副総長が就任
- 1 2 片平分館（仮称）設置構想検討委員会設置
- 1 5 . 3 学術情報資料選定小委員会設置
- // 図書自動貸出返却装置導入（本館・工学分館）
- 4 日曜・祝日開館開始
- 6 学生用図書整備検討委員会設置
- // 国立大学の法人化（平成16年度）に伴う、附属図書館の中期目標・中期計画及び年度計画の策定
- 1 0 ゼミナール受講生（2年生）の入庫検索許可
- // 附属図書館長に国際交流・広報担当副総長が就任
- // 医療技術短期大学部学生等の医学分館休日利用試行
(10月11日～3月31日)
- 1 2 齋藤養之助家史料受入・整理検討委員会設置
- 1 6 . 1 工学分館入退館システム更新
- 2 医学分館1階ラウンジに飲食コーナー設置
- 3 古典資料修復保存小委員会設置
- // 医学分館に書庫・学生閲覧室増築
- 4 国立大学の法人化に伴い、法人の設置する東北大学となる
- // 学外者への貸出開始
- 1 7 . 1 2 東北大学附属図書館情報処理システム更新
- 1 8 . 7 キャンパス間資料搬送サービス試行（7月3日～12月25日）
- 1 0 オンライン・レファレンス・サービス試行
(平成18年10月4日～平成19年3月31日)
- 1 1 私費での学内ILL「文献複写申込」を試行
- 1 2 東北大学機関リポジトリ「TOUR」試行版公開
- 1 9 . 1 キャンパス間資料搬送サービス試行延長（1月9日～3月30日）
- 2 複合機と文献複写画像伝達システム「e-DDS」を活用した文献伝達システムの運用開始
- 3 東北大学機関リポジトリ「TOUR」正式公開
e-DDS（電子文献デリバリーサービス）開始

- 4 キャンパス間資料搬送サービス開始
- 9 東北大学創立100周年記念展示「東北大学至宝」展を江戸東京博物館で開催

東北大学創立100周年・漱石朝日新聞社入社100年・江戸東京博物館開館15周年「文豪・夏目漱石」展を江戸東京博物館で開催

- 11 東北大学創立100周年記念展示「東北大学至宝」展を仙台市博物館で開催

- 20. 3 東北大学創立100周年記念特別展「学都に息づく夏目漱石の精神」を仙台文学館で開催

2. 歴代館長・副館長・分館長

(1) 附属図書館長

平成19年4月1日現在

代	館 長 名	学 部	在 任 期 間
初代	林 鶴 一	理 学 部 (数 学 学 部)	大正 5. 6. 9 ~ 大正 13. 7. 30
2代	武 内 義 雄	文 学 部 (中 国 哲 学 部)	大正 13. 7. 31 ~ 昭和 4. 9. 9
3代	村 岡 典 嗣	文 学 部 (日 本 思 想 史)	昭和 4. 9. 10 ~ 昭和 12. 11. 29
4代	石 原 謙	文 学 部 (哲 学 学 部)	昭和 12. 11. 30 ~ 昭和 15. 9. 29
5代	小 宮 豊 隆	文 学 部 (ドイ ツ 文 学 部)	昭和 15. 9. 30 ~ 昭和 21. 5. 29
6代	高 橋 穰	文 学 部 (倫 理 学 部)	昭和 21. 5. 30 ~ 昭和 22. 3. 30
7代	木 村 亀 二	法 学 部 (刑 法 学 部)	昭和 22. 3. 31 ~ 昭和 25. 11. 29
8代	三 宅 剛 一	文 学 部 (哲 学 学 部)	昭和 25. 11. 30 ~ 昭和 28. 11. 29
9代	中 村 吉 治	経 済 学 部 (日 本 経 済 史)	昭和 28. 11. 30 ~ 昭和 33. 11. 30
10代	世 良 晃 志 郎	法 学 部 (西 洋 法 制 史)	昭和 33. 12. 1 ~ 昭和 38. 11. 30
11代	金 谷 治	文 学 部 (中 国 哲 学 部)	昭和 38. 12. 1 ~ 昭和 43. 11. 30
12代	竹 内 利 美	教 育 学 部 (社 会 教 育 学 部)	昭和 43. 12. 1 ~ 昭和 46. 11. 30
13代	吉 田 震 太 郎	経 済 学 部 (財 政 学 部)	昭和 46. 12. 1 ~ 昭和 50. 11. 30
14代	和 田 正 信	工 学 部 (固 体 電 子 工 学 部)	昭和 50. 12. 1 ~ 昭和 54. 11. 30
15代	服 藤 弘 司	法 学 部 (日 本 法 制 史)	昭和 54. 12. 1 ~ 昭和 57. 11. 30
16代	吉 岡 昭 彦	文 学 部 (西 洋 史 学 部)	昭和 57. 12. 1 ~ 昭和 60. 11. 30
17代	塚 本 哲 人	教 育 学 部 (社 会 教 育 学 部)	昭和 60. 12. 1 ~ 昭和 63. 11. 30
18代	勾 坂 馨	医 学 部 (法 医 学 部)	昭和 63. 12. 1 ~ 平成 3. 11. 30
19代	菊 地 和 聖	経 済 学 部 (会 計 学 部)	平成 3. 12. 1 ~ 平成 6. 11. 30
20代	小 山 貞 夫	法 学 部 (西 洋 法 制 史)	平成 6. 12. 1 ~ 平成 9. 11. 30
21代	小 田 忠 雄	理 学 部 (代 数 学 部)	平成 9. 12. 1 ~ 平成 14. 11. 5
22代	大 西 仁	法 学 部 (国 際 政 治 学 部)	平成 14. 11. 6 ~ 平成 17. 3. 31
23代	野 家 啓 一	文 学 研 究 科 (哲 学 学 部)	平成 17. 4. 1 ~

※林 鶴一 明治44. 6. 14から大正5. 6. 8まで主幹

(2) 附属図書館副館長

代	副 館 長 名	学 部	在 任 期 間
初代	布 田 勉	国際文化研究科 (ヨーロッパ文化論・ 憲法学)	平成 12. 12. 1 ~ 平成 14. 11. 30
2代	今 泉 隆 雄	文 学 部 (日本史学)	平成 14. 12. 1 ~ 平成 17. 9. 30
3代	倉 本 義 夫	理 学 研 究 科 (物性理論)	平成 17. 10. 1 ~

(3) 医学分館長

代	分 館 長 名	分 野	在 任 期 間
初代	青 木 薫	医 学 部 (細菌学)	大正 5. 5. 19 ~ 大正 14. 1. 1
2代	藤 田 敏 彦	医 学 部 (生理学)	大正 14. 1. 2 ~ 昭和 2. 12. 30
3代	井 上 嘉都治	医 学 部 (生理学)	昭和 2. 12. 31 ~ 昭和 4. 12. 30
4代	佐 武 安太郎	医 学 部 (化学)	昭和 4. 12. 31 ~ 昭和 6. 12. 31
5代	八 木 精 一	医 学 部 (生理学)	昭和 6. 12. 31 ~ 昭和 8. 12. 30
6代	石 川 哲 郎	医 学 部 (薬理学)	昭和 8. 12. 31 ~ 昭和 10. 12. 30
7代	木 村 男 也	医 学 部 (法医学)	昭和 10. 12. 31 ~ 昭和 12. 12. 30
8代	那 須 省三郎	医 学 部 (病理学)	昭和 12. 12. 31 ~ 昭和 14. 12. 30
9代	内 野 仙 治	医 学 部 (病理学)	昭和 14. 12. 31 ~ 昭和 16. 12. 25
10代	本 川 弘 一	医 学 部 (化学)	昭和 16. 12. 26 ~ 昭和 18. 12. 25
11代	正 宗 一	医 学 部 (生理学)	昭和 18. 12. 26 ~ 昭和 20. 12. 25
12代	黒 屋 政 彦	医 学 部 (化学)	昭和 20. 12. 26 ~ 昭和 22. 12. 26
13代	松 田 幸次郎	医 学 部 (細菌学)	昭和 22. 12. 27 ~ 昭和 25. 12. 26
14代	和 田 正 男	医 学 部 (生理学)	昭和 25. 12. 27 ~ 昭和 29. 12. 26
15代	寺 坂 源 雄	医 学 部 (生理学)	昭和 29. 12. 27 ~ 昭和 33. 12. 26
16代	村 上 次 男	医 学 部 (薬理学)	昭和 33. 12. 27 ~ 昭和 37. 12. 26
17代	浦 良 治	医 学 部 (法医学)	昭和 37. 12. 27 ~ 昭和 41. 12. 26
18代	高 橋 英 次	医 学 部 (解剖学)	昭和 41. 12. 27 ~ 昭和 45. 12. 26
19代	橋 本 虎 六	医 学 部 (衛生学)	昭和 45. 12. 27 ~ 昭和 48. 12. 26
20代	田 崎 京 二	医 学 部 (薬理学)	昭和 48. 12. 27 ~ 昭和 52. 12. 26
21代	鈴 木 泰 三	医 学 部 (生理学)	昭和 52. 12. 27 ~ 昭和 54. 7. 31
22代	山 本 敏 行	医 学 部 (応用生理学)	昭和 54. 8. 1 ~ 昭和 58. 7. 31
23代	笹 野 伸 昭	医 学 部 (解剖学)	昭和 58. 8. 1 ~ 昭和 62. 7. 31

代	分館長名	分野	在任期間
24代	勾坂 馨	医学部 (法医学)	昭和 62. 8. 1 ~ 昭和 63. 11. 30
25代	櫻井 實	附属病院 (整形外科)	昭和 63. 12. 1 ~ 平成 3. 11. 30
26代	林 典夫	医学部 (医化学)	平成 3. 12. 1 ~ 平成 7. 11. 30
27代	高坂 知節	附属病院 (耳鼻咽喉科学)	平成 7. 12. 1 ~ 平成 11. 11. 30
28代	飯沼 一宇	附属病院 (小児病態学)	平成 11. 12. 1 ~ 平成 15. 11. 30
29代	佐藤 洋	医学系研究科 (社会医学)	平成 15. 12. 1 ~

(4) 北青葉山分館長

代	分館長名	分野	在任期間
初代	服藤 弘司 (事務取扱)	法学部 (日本法制史)	昭和 57. 4. 1 ~ 昭和 57. 6. 30
2代	中島 威	理学部 (有機物理化学)	昭和 57. 7. 1 ~ 昭和 61. 3. 31
3代	高柳 洋吉	理学部 (古生物学)	昭和 61. 4. 1 ~ 平成 2. 3. 31
4代	鳥羽 良明	理学部 (海洋物理学)	平成 2. 4. 1 ~ 平成 6. 3. 31
5代	鈴木 康男	薬学部 (薬剤学)	平成 6. 4. 1 ~ 平成 7. 3. 31
6代	金子 主税	薬学部 (薬化学)	平成 7. 4. 1 ~ 平成 8. 3. 31
7代	加藤 順二	理学部 (応用数理)	平成 8. 4. 1 ~ 平成 11. 3. 31
8代	吉藤 正明	理学部 (有機化学)	平成 11. 4. 1 ~ 平成 15. 3. 31
9代	井原 正隆	薬学部 (創薬化学)	平成 15. 4. 1 ~ 平成 17. 3. 31
10代	倉本 義夫	理学研究科 (物性理論)	平成 17. 4. 1 ~ 平成 17. 10. 31
11代	高木 泉	理学研究科 (応用数理)	平成 17. 11. 1 ~

(5) 工学分館長

代	分館長名	分野	在任期間
初代	斎藤 秀雄	機械力学及び 機械設計学	昭和 53. 6. 1 ~ 昭和 57. 3. 31
2代	下飯坂 潤三	鉱物処理工学	昭和 57. 4. 1 ~ 昭和 59. 3. 31
3代	井川 克也	鑄造工学	昭和 59. 4. 1 ~ 昭和 61. 3. 31
4代	斎藤 伸自	回路網学	昭和 61. 4. 1 ~ 昭和 63. 3. 31
5代	只木 楨力	物質変換工学	昭和 63. 4. 1 ~ 平成 2. 3. 31
6代	箱守 京次郎	自動制御学	平成 2. 4. 1 ~ 平成 4. 3. 31
7代	守田 徹	計算機工学	平成 4. 4. 1 ~ 平成 6. 3. 31

代	分館長名	分野	在任期間
8代	中鉢憲賢	生体電磁工学	平成 6. 4. 1 ～ 平成 8. 3. 31
9代	福田正	交通制御	平成 8. 4. 1 ～ 平成 10. 3. 31
10代	本間基文	磁性材料学	平成 10. 4. 1 ～ 平成 12. 3. 31
11代	宮崎照宣	応用界面物理学	平成 12. 4. 1 ～ 平成 14. 3. 31
12代	奥脇昭嗣	環境資源化学	平成 14. 4. 1 ～ 平成 15. 3. 31
13代	江村超	メカトロニクス	平成 15. 4. 1 ～ 平成 17. 3. 31
14代	松本繁	プロセス制御	平成 17. 4. 1 ～ 平成 18. 3. 31
15代	阿曾弘具	通信システム工学	平成 19. 4. 1 ～

(6) 農学分館長

代	分館長名	専攻	在任期間
初代	柴崎一雄	食品保蔵学	昭和 49. 5. 1 ～ 昭和 53. 4. 30
2代	高橋甫	応用微生物学	昭和 53. 5. 1 ～ 昭和 57. 4. 30
3代	金田尚志	食品学	昭和 57. 5. 1 ～ 昭和 59. 4. 30
4代	秦満夫	水産利用学	昭和 59. 5. 1 ～ 昭和 61. 3. 31
5代	堀裕	園芸学	昭和 61. 4. 1 ～ 昭和 62. 3. 31
6代	堀口雅昭	家畜飼養学	昭和 62. 4. 1 ～ 平成元. 3. 31
7代	山下恭平	農薬化学	平成元. 4. 1 ～ 平成 3. 3. 31
8代	竹内昌昭	水産利用学	平成 3. 4. 1 ～ 平成 5. 3. 31
9代	目黒熙	生体分子分析学	平成 5. 4. 1 ～ 平成 7. 3. 31
10代	酒井惇一	資源経営経済学	平成 7. 4. 1 ～ 平成 9. 3. 31
11代	伊藤敏敏	動物資源化学	平成 9. 4. 1 ～ 平成 11. 3. 31
12代	折谷隆之	応用生物化学	平成 11. 4. 1 ～ 平成 13. 3. 31
13代	大森迪夫	資源海洋生態学	平成 13. 4. 1 ～ 平成 15. 3. 31
14代	谷口旭	環境修復生態学	平成 15. 4. 1 ～ 平成 17. 3. 31
15代	國分牧衛	作物学	平成 17. 4. 1 ～ 平成 18. 3. 31
16代	池上正人	植物病理学	平成 19. 4. 1 ～

(7) 教養部分館長

代	分館長名	分野	在任期間
初代	福本喜繁	物理学	昭和 32. 4. 1 ~ 昭和 36. 3. 31
2代	嶺岸義秋	国文学	昭和 36. 4. 1 ~ 昭和 8. 3. 31
3代	白井俊二	物理学	昭和 36. 4. 1 ~ 昭和 39. 4. 16
4代	宮川善造	人文地理学	昭和 39. 4. 17 ~ 昭和 42. 4. 16
5代	蟻坂仲明	数学	昭和 42. 4. 17 ~ 昭和 44. 4. 16
6代	黒田正典	心理学	昭和 44. 4. 17 ~ 昭和 46. 8. 31
7代	西村貞二	西洋史	昭和 46. 9. 1 ~ 昭和 47. 3. 31

(昭和 47 年 4 月教養部分館廃止、本館に統合)

3. 歴代部課長・事務長

平成19年4月1日現在

事務長	吉岡孝治郎	24.8.31～32.12.31
〃	高木武之助	33.1.1～39.11.30
事務部長	芳賀国作	40.4.1～42.3.31
〃	栗原一郎	42.4.1～52.3.31
〃	長尾公司	52.4.1～58.3.31
〃	谷本幹男	58.4.1～60.3.31
〃	柿沼正男	60.4.1～61.3.31
〃	松川衛	61.4.1～63.3.31
〃	相良侯秀	63.4.1～2.3.31
〃	矢野光雄	2.4.1～4.3.31
〃	岩元忠幸	4.4.1～6.3.31
〃	高橋裕	6.4.1～8.3.31
〃	辻英雄	8.4.1～11.3.31
〃	濟賀宣昭	11.4.1～14.3.31
〃	坂上光明	14.4.1～16.3.31
〃	内藤英雄	16.4.1～17.12.20
〃	北村明久	18.3.1～

総務課長	猪狩治	49.4.1～52.3.31
〃	竹原悦郎	52.4.1～60.3.31
〃	及川三千男	60.4.1～63.3.31
〃	笠原勉	63.4.1～3.3.31
〃	佐藤嗣	3.4.1～5.3.31
〃	伊藤則男	5.4.1～7.3.31
〃	門田泰典	7.4.1～9.3.31
〃	谷内聰	9.4.1～11.3.31
〃	東高明	11.4.1～13.8.31
〃	清水二郎	13.9.1～15.12.31
〃	諏訪田義美	16.1.1～18.3.31
〃	菅原英一	18.4.1～19.3.31

〃	加 藤 信 哉	19. 4. 1 ～
整 理 課 長	佐 藤 林兵衛	40. 4. 1 ～ 43. 3.31
〃	窪 田 正八郎	43. 4. 1 ～ 48. 3.31
〃	長 尾 公 司	48. 4. 1 ～ 50. 6.15
〃	平 清 二	50. 6.16 ～ 53. 3.31
〃	玉 木 卓 郎	53. 4. 1 ～ 56.11.30
〃	柿 沼 正 男	56.12. 1 ～ 58. 3.31
〃	熊 谷 俊 夫	58. 4. 1 ～ 61. 3.31
〃	徳 田 洋 一	61. 4. 1 ～ 63. 4. 7
情 報 管 理 課 長	徳 田 洋 一	63. 4. 8 ～ 元. 3.31
〃	遠 藤 哲 朗	元. 4. 1 ～ 元.11.30
〃	兵 永 朗	元.12. 1 ～ 4. 3.31
〃	大 林 重 夫	4. 4. 1 ～ 6. 3.31
〃	門 田 泰 典	6. 4. 1 ～ 7. 3.31
〃	宮 坂 寛	7. 4. 1 ～ 10. 3.31
〃	由 良 信 道	10. 4. 1 ～ 12. 3.31
〃	三 池 慎三郎	12. 4. 1 ～ 15. 3.31
〃	諏訪田 義 美	15. 4. 1 ～ 15.12.31
〃	佐 藤 正 弘	16. 1. 1 ～ 18. 3.31
〃	臼 井 克 巳	18. 4. 1 ～
閲 覧 課 長	大 原 美 治	40. 4. 1 ～ 49. 3.31
〃	平 清 二	49. 4. 1 ～ 50. 6.15
〃	石 川 亮	50. 6.16 ～ 54. 3.31
〃	谷 本 幹 男	54. 4. 1 ～ 55. 3.31
〃	柿 沼 正 男	55. 4. 1 ～ 56.11.30
〃	徳 永 博 陸	56.12. 1 ～ 60. 3.31
〃	湯 浅 富士夫	60. 4. 1 ～ 63. 3.31
〃	鈴 木 英 夫	63. 4. 1 ～ 63. 4. 7

情報サービス課長	鈴木 英 夫	63. 4. 8 ～ 2. 3.31
〃	鳥屋部 順	2. 4. 1 ～ 5. 3.31
〃	高 砂 慶	5. 4. 1 ～ 7. 3.31
〃	片 野 孝 保	7. 4. 1 ～ 10. 3.31
〃	早 瀬 均	10. 4. 1 ～ 13. 3.31
〃	矢 野 誠	13. 4. 1 ～ 14.12.31
〃	白 石 光 雄	15. 1. 1 ～ 19. 3.31
〃	横 山 敏 秋	19. 4. 1 ～

医 学 部 事 務 長	松 川 衛	51. 4. 1 ～ 54. 3.31
〃	木 本 明 男	54. 4. 1 ～ 57. 3.31
〃	佐 藤 初 雄	57. 4. 1 ～ 60. 3.31
〃	桜 田 俊一郎	60. 4. 1 ～ 62. 3.31
〃	阿 部 壽 雄	62. 4. 1 ～ 3. 3.31
〃	小 野 和 夫	3. 4. 1 ～ 5. 3.31
〃	佐 藤 定 夫	5. 4. 1 ～ 9. 3.31
〃	村 岡 徹	9. 4. 1 ～ 11. 3.31
〃	栃 原 孝 夫	11. 4. 1 ～ 14. 3.31
〃	高 橋 豊 志	14. 4. 1 ～ 17. 3.31
〃	佐 藤 克 義	17. 4. 1 ～ 18. 3.31
〃	熊 谷 功	18. 4. 1 ～19. 3.31
〃	山 越 隆 雄	19. 4. 1 ～

4. 附属図書館商議会商議員

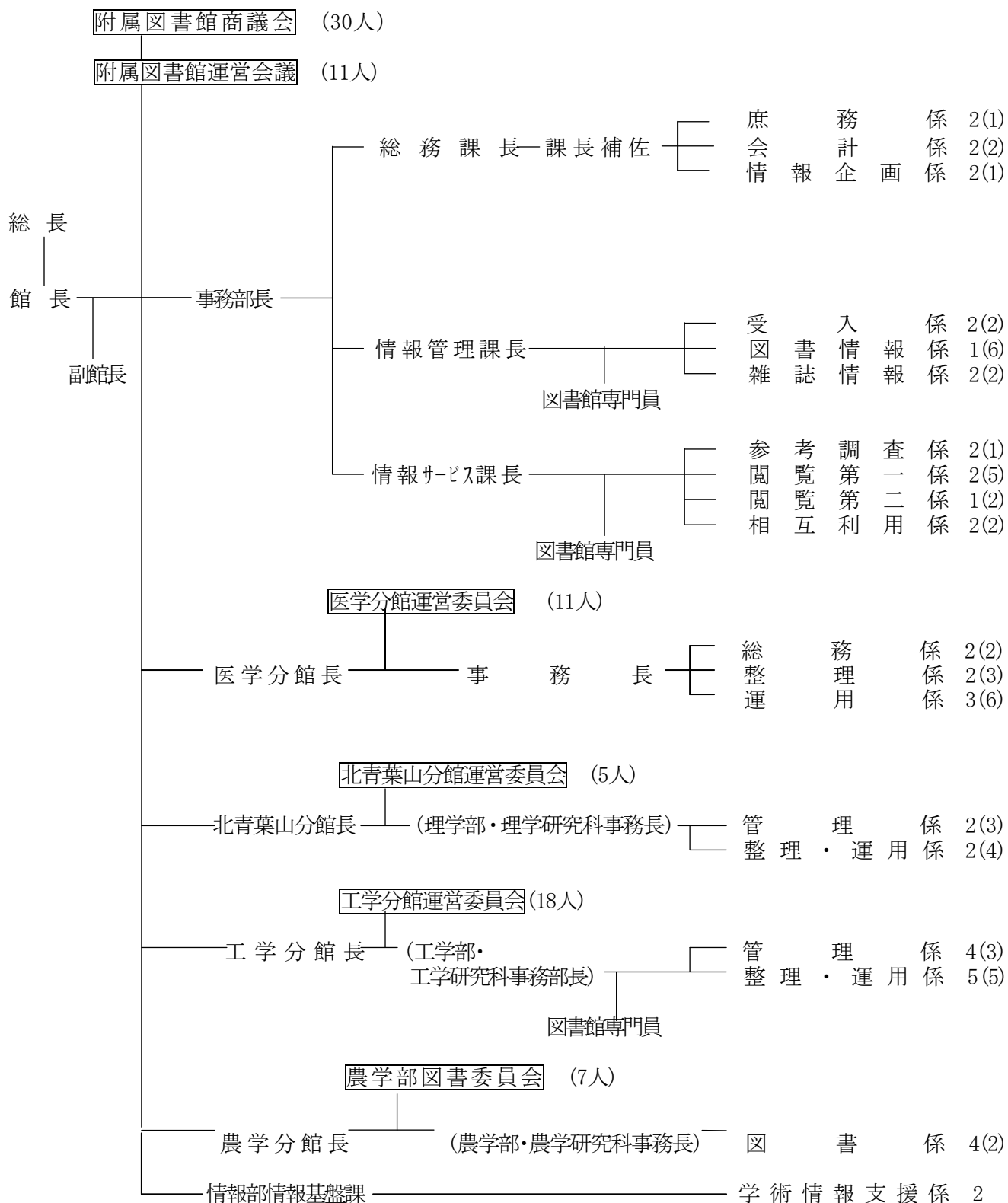
平成19年4月1日現在

所 属 ・ 役 職 名	平成18年度	平成19年度
図 書 館 長	野 家 啓 一	野 家 啓 一
図 書 館 副 館 長	倉 本 義 夫	倉 本 義 夫
医 学 分 館 長	佐 藤 洋	佐 藤 洋
北 青 葉 山 分 館 長	高 木 泉	高 木 泉
工 学 分 館 長	松 本 繁	阿 曾 弘 具
農 学 分 館 長	國 分 牧 衛	池 上 正 人
情報シナジーセンター長	川 添 良 幸	川 添 良 幸
総 長 主 席 補 佐	磯 谷 桂 介	—————
副 学 長（総務担当）	—————	北 村 幸 久
文 学 研 究 科 教 授	原 英 一	原 英 一
教 育 学 研 究 科 教 授	梶 山 雅 史	秋 永 雄 一
法 学 研 究 科 教 授	山 元 一	山 元 一
経 済 学 研 究 科 教 授	猿 渡 啓 子	佐 藤 秀 夫
理 学 研 究 科 教 授	寺 前 紀 夫	寺 前 紀 夫
医 学 系 研 究 科 教 授	柳 澤 輝 行	柳 澤 輝 行
歯 学 研 究 科 教 授	奥 野 攻	菊 地 正 嘉
薬 学 研 究 科 教 授	永 沼 章	永 沼 章
工 学 研 究 科 教 授	桑 野 博 喜	進 藤 裕 英
農 学 研 究 科 教 授	池 上 正 人	山 下 ま り
国 際 文 化 研 究 科 教 授	北 川 誠 一	佐 藤 研 一
情 報 科 学 研 究 科 教 授	尾 畑 伸 明	尾 畑 伸 明
生 命 科 学 研 究 科 教 授	仲 村 春 和	仲 村 春 和
環 境 科 学 研 究 科 教 授	松 木 浩 二	佐 竹 正 夫
教 育 情 報 学 研 究 部 教 授	村 木 英 治	村 木 英 治
金 属 材 料 研 究 所 教 授	古 原 忠	古 原 忠
加 齢 医 学 研 究 所 教 授	佐 竹 正 延	山 本 徳 男
流 体 科 学 研 究 所 教 授	藤 代 一 成	藤 代 一 成
電 気 通 信 研 究 所 教 授	村 岡 裕 明	村 岡 裕 明
多 元 物 質 科 学 研 究 所 教 授	大 塚 康 夫	大 塚 康 夫
東 北 ア ジ ア 研 究 セ ン ター 教 授	磯 部 彰	磯 部 彰
高等教育開発推進センター教授	関 内 隆	静 谷 啓 樹

5. 組織及び職員

(1) 附属図書館

平成19年4月1日現在
()内は非常勤、ともに外数
単位：人



職制別 館別	館長 副館長 分館長 (併任)	事務 部長	課長 事務長	課長 補佐	図書館 専門員	係長	係員		計
							定員	非常勤	
本館	2	1	3	1	2	11	9	28	53
医学分館	1	-	1	-	-	3	3	12	20
北青葉山分館	1	-	-	-	-	2	2	6	11
工学分館	1	-	-	-	1	2	7	8	19
農学分館	1	-	-	-	-	1	3	2	7
合計	6	1	4	1	3	19	24	50	114

(2) 部局図書室

単位：人

区 分	職 員		計
	定 員	非常勤	
文学部・文学研究科図書室	-	2	2
教育学部・教育学研究科図書室	-	2	2
法学部・法学研究科図書室	2	-	2
法政実務図書室	2	-	2
経済学部・経済学研究科図書室	2	2	4
生命科学研究科図書室	1	0	1
金属材料研究所図書係	2	3	5
流体科学研究所図書室	-	1	1
電気通信研究所図書係	1	1	2
多元物質科学研究所図書室	1	2	3
東北アジア研究センター図書室	-	2	2
合 計	11	15	26

6. 蔵 書

(1) 蔵書数

平成20年5月1日現在

区 分	図 書 (冊)	雑 誌 (種)
本 館	2, 5 1 7, 6 6 3	4 0, 0 0 9
医 学 分 館	4 2 6, 4 3 3	1 3, 3 9 1
北青葉山分館	3 6 7, 8 1 1	8, 3 1 3
工 学 分 館	3 2 5, 8 3 3	7, 4 5 6
農 学 分 館	1 3 3, 2 2 2	4, 8 7 9
合 計	3, 7 7 0, 9 6 2	7 4, 0 4 8

(2) 資料費 (平成19年度)

単位：千円

区 分	図 書		雑 誌		電子ジャーナル		その他 (DB等)	計
	和	洋	和	洋	出版社	その他		
本 館	87,272	93,164						
医 学 分 館	4,692	2,614						
北青葉山分館	3,627	9,349						
工 学 分 館	11,102	14,973						
農 学 分 館	4,151	1,810						
合 計	110,844	121,910	42,026	297,616	421,091	10,646	49,483	1,053,616

注) ・片平地区の研究所・センター、青葉山地区のサイクロトロン・R I センター及び川内地区の東北アジア研究センターは、本館に含めている。

(3) 特殊コレクション

a. 本 館

【国 宝】

① 類聚国史 卷第二十五 (一卷) 平安時代末期

『類聚国史』は、菅原道真が勅を奉じて、六国史 (『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『文徳実録』『三代実録』) の記事を主題別に分け編纂したもので、当時は全200巻であったが、現在は61巻を残すのみである。本館所蔵の卷第二十五は「帝王部第五」で、平安朝末期に筆写されたものである。『類聚国史』の写本としては現存するものの中で最古のものとされている。

② 史記 孝文本紀 第十 (一卷) 延久5年 (1073)

『史記』は、言うまでもなく漢の司馬遷撰の史書であるが、この『史記』の最古の注釈書とされる南朝宋の裴いん撰『史記集解』の古写本で、文章博士大江家国の筆に成るものである。

本文には朱書の乎古止点、墨書の古訓反切等が施され、また、注の加筆及び朱書の校合などが加えられ、欄外行間・紙背には史記の索隠と漢書の旧注等を記している。

なお「孝文本紀」は、仁政を施いたとされる漢の孝文帝 (太宗) の治績を記したものである。

【個人文庫】

① 狩野文庫

狩野文庫は、秋田県大館出身の文学博士狩野亨吉（かのう こうきち 1865～1942）の旧蔵書である。亨吉は、旧制第一高等学校校長（明治31～39）や京都帝国大学文学科大学長（明治39～41）を歴任し、また江戸時代の学者志筑忠雄、思想家安藤昌益、世家本多利明を発掘したことでも知られる。

亨吉の蔵書は、亨吉の親友で東北帝国大学の初代総長であった沢柳政太郎の尽力により東北大学にもたらされた。そのとき亨吉は、蔵書を一括かつ東北大学に永久に保管することを条件に譲渡したという。大正元年のことである。その後亨吉が収集した資料も昭和18年 3月までに3回にわたり追加購入あるいは寄贈によって受入れ、現在では、約108,000冊からなる大コレクションになっている。和漢書古典を主体とする幅広い領域の資料を含み、「古典の百科全書」、あるいは、「江戸学の宝庫」とも称される。「史記孝文本紀第十」（延久5年(1073)写)および「類聚国史 第二十五」（平安時代末期写)の国宝2点を含む。平成3年からマイクロフィルム化が進められ、平成5年約55,000冊のマイクロフィルム化が完了した。

② 和算関係文庫

元本学理学部教授で初代の図書館長であった林鶴一（1873～1935）ならびに元本学理学部教授であった藤原松三郎（1881～1946）の旧蔵書および両教授の収集した和算関係資料 14,470冊と元帝国学士院会員の岡本則録（1847～1931）の旧蔵書約2,667冊その他からなる合計約17,000冊のコレクションである。

林鶴一は、当時和算研究の第一人者であったが、また関流和算の継承者でもあった。それゆえ、このなかには、関流和算の免許状も含まれている。このコレクションに狩野文庫に含まれる和算関係資料をあわせると全国和算資料の3分の2を占めることとなり、東北大学は、大学における和算研究の中心となるに至る。

コレクションの特徴としては、和算書以外に、天文書、測量に関する資料も含まれていることが挙げられる。特に貴重なものとしては、毛利重能著「割算書」（元和8年）がある。

③ 西藏（チベット）大蔵経

元本法文学部講師で西藏学者であった多田等観（ただとうかん 1890～1967）がチベットにおいて収集した資料 6,652部からなるコレクションである。大正12年に受入れられた「デルゲ版西藏大蔵経」 4,569部と昭和4年に購入した「西藏撰述仏典」2,083部を含む。デルゲ版大蔵経は、ナルタン版、北京版、チヨネ版とならぶ現存する4大大蔵経のひとつで、チベット東北地方において1729年～1744年にかけて開版された。大蔵経は、仏説部・カンギュルと論疏部・テンギュルからなるが、デルゲ版のカンギュルは、特に校訂の精確さと印刷の鮮明さで知られている。デルゲ版の版木は、1932年の中蔵騒乱中に烏有に帰したとされており、現在では本館所蔵の大蔵経は、数少ない完本の一つとされている。

④ 漱石文庫

文豪夏目漱石（1867～1916）の旧蔵書 3,068冊からなるコレクションである。英文学関係の図書が中心で、漱石による多くの書入がある。漱石の日記、ノート、試験問題、原稿・草稿などの断片資料も含まれている。

この文庫が本学に譲渡されることになったのは、当時の本学図書館長で、漱石の愛弟子でもあった小宮豊隆（1884～1966）の尽力による。搬入は、昭和18年から

はじまり、昭和19年 3月に完了した。漱石山房があった早稲田南町は、昭和20年3月10日の空襲で焼けてしまったというから、この漱石研究の重要資料は、本学に移されたことで焼失を免れたことになる。平成7年度より仙台市と共同でマイクロフィルム化を進め、平成 9年度末に完了した。

⑤ **ヴント文庫**

ライプチヒ大学学長も勤めたこともあるドイツの著名な心理学者Wilhelm Wundt (1832～1920) の旧蔵書15,840冊からなるコレクションである。ヴントの没後、ドイツのローレンツ書店から売り出され、ライプチヒ大学や米国のエール大学、ハーバード大学も購入に乗り出していたが、当時京都帝国大学助教授で帰国後本学心理学教室の初代教授に就任することになっていたドイツ留学中の千葉胤成の奔走とヴント高弟のクリーゲル教授の好意的措置により、本学が獲得した。大正15年に斎藤報恩会の寄付金により購入し、受け入れたものである。この文庫に含まれる資料は、ヴントが生涯を通じて集めた旧蔵書全体の約6割といわれており、理学・哲学関係を中心に、幅広い学問分野の資料が含まれている。カントやライプニッツ、スピノザの初版本は、貴重書扱いとなっている。

⑥ **ケーベル文庫**

明治26年から大正 3年まで東京帝国大学において西洋哲学を講じたRaphael von Koeber (1848～1923)の旧蔵書1,999冊からなるコレクションである。ケーベルは、夏目漱石が「ケーベル先生」の中で、東京文科大学で「一番人格の高い教授」といい、常に敬愛したケーベル博士その人である。同博士に師事した本学法学部の久保勉教授のあっせんで、昭和17年3月に購入した。ギリシャ、ラテンの古典学を中心に哲学・文学関係の図書が多い。

⑦ **阿部文庫**

『三太郎の日記』で知られる元本学法文学部教授阿部次郎(1883～1959)の旧蔵書のうち和書5,190冊からなり、日本文化のあらゆる領域にわたっている。

⑧ **晩翠文庫**

旧制第二高等学校教授で詩人として有名な土井晩翠(1871～1952)の西洋詩関係書を主とした旧蔵書 2,624冊からなり、書入本を多く含む。

⑨ **大類文庫**

元本学法文学部教授大類伸(1884～1975)の旧蔵書のうちインキュナビュラ(初期刊本)を含む洋書 946冊からなり、西洋史、特にルネッサンス関係資料が主である。

⑩ **児島文庫**

元本学法文学部助教授児島喜久雄(1887～1950)の旧蔵書のうち洋書1,494冊からなり、西洋美術史、特にレオナルド・ダ・ヴィンチ関係の文献を多く含む。

⑪ **石津文庫**

元本学学長石津照璽(1903～1972)の旧蔵書約 4,773冊で、主として宗教哲学関係の資料からなっている。

⑫ **梅原文庫**

京都大学名誉教授梅原末治(1893～1983)の旧蔵書のうち洋書1,113冊、和書33冊からなり、考古学関係と世界各地の博物館関係の貴重な資料を多く含む。

⑬ **矢島文庫**

元本学文学部助教授矢島玄亮(1903～2001)の旧蔵書約 2,030冊で、主として

中国哲学・中国文学・書誌学関係の資料からなっている。

⑭ シュタイン文庫

ドイツの民事訴訟法学者で、ライプチヒ大学教授であった Friedrich Stein (1859～1923) の旧蔵書 6,810冊からなるコレクションである。民法・商法・民事訴訟法・破産法・刑法等法律全般に関する図書、雑誌、小冊子を含む。大正十五年に受入された。

⑮ ゼッケル文庫

元ベルリン大学教授でローマ法研究の権威 Emil Seckel (1864～1924) の旧蔵書 7,380冊からなるコレクションである。ゼッケルは、その蔵書をドイツ国立図書館に譲るか、ケンブリッジ、オックスフォード、ハーバード、エールのような一流大学に譲渡するよう夫人に言い残したとされるが、ゼッケル教授に師事した本学の栗生武夫教授等の尽力により、大正15年に本学が受け入れた。

蔵書の内容は、ローマ法、教会法関係の文献を中心とするが、なかには、ローマ法王庁からゼッケル教授に寄贈された貴重な資料が含まれている。もともと本文庫に含まれていた約1万点のパンフレット類は、分類整理を終わって製本作業に移っていたが、昭和20年の空襲で焼失した。

⑯ チーテルマン文庫

ボン大学教授で、国際私法の大家でもあり、ドイツ民法の起草者であった Ernst Zitelmann (1852～1923) の旧蔵書8,280冊からなるコレクションである。同教授の歿後、夫人がフォック書店を通じて譲渡しようとしていたもので、当時ドイツ留学中であった石田文次郎教授の交渉により本学に譲渡されたもの。大正13年に受け入れた。当初は、5,000冊余りの小冊子を含んでいたが、整理中にゼッケル文庫のパンフレットとともに昭和20年の戦災で焼失した。

⑰ 櫛田文庫

櫛田民蔵 (1885～1934) の旧蔵書 3,130冊からなるコレクションである。

櫛田民蔵は、同志社大学教授、東京帝国大学経済学部講師を経て大原社会問題研究所員となり、ヨーロッパ留学中にマルクス主義関連の文献の購入に奔走した。

民蔵の死後、当時本学の法文学部助教授であった宇野弘蔵のあっせんで本学が購入することになったものである。昭和10年度から12年度にかけて4回に分けて購入された。

蔵書は、内外の社会科学、社会問題、労働問題関係の文献を含み、なかでも、*Misere de la philosophie* (「哲学の貧困」初版本 1847刊) は、マルクスの自用本とされ、マルクス自身による多数の訂正・書き込みがある極めて貴重な資料である。マルクスの死後、エンゲルスの手を経て、ドイツ社会民主党の蔵書となったものを櫛田が譲りうけたとされる。この文庫には、他にも資本論ドイツ語初版本やドイツ社会民主党の蔵書印のあるもの、ベームバベルクの蔵書印のあるもの等が含まれている。

⑱ 長谷田文庫

元本学経済学部教授長谷田泰三 (1891～1950) の旧蔵書のうち経済学関係の洋書 607冊を収める。和書 150冊は一般の図書と共に配架されている。

⑲ 和田文庫

元本学法文学部教授和田佐一郎 (1894～1944) の旧蔵書のうち経済学関係を主とする洋書2,670冊を収める。和書 682冊は一般の図書と共に配架されている。

⑳ 須永文庫

元本学農学研究所教授須永重光（1907～1976）の旧蔵書で、洋書 427冊、和書 5,889冊からなり広い分野にわたっているが、特に経済・農林水産業・歴史等に関する文献が多い。

㉑ 木下文庫

元本学経済学部教授木下彰（1901～1982）の旧蔵書で和書 4,542冊、洋書525冊からなり、農業経済学関係の資料を主とする。

㉒ 高柳文庫

元本学法学部教授で日本学士院会員であった高柳眞三（1902～1990）の旧蔵書で、洋書 531冊、和書 3,287冊からなり、日本法制史関係の資料を主とする。

㉓ 宮田文庫

元本学法学部教授宮田光雄（1928～ ）の旧蔵書のうち、西洋政治思想史関係の 6,560冊で、ドイツ政治思想史、キリスト教政治思想史、平和研究の三分野を中心に収集されている。

文庫の中には、ヒトラー著「わが闘争」初版本（全2巻、1925～1926年刊）、オット・シュトラッサー著「ヒトラーと私」（1940年刊）、バルト著「ローマ書」初版（1919年刊）などの研究史上重要名著作に加え、ネオ・ナチズムの新聞やパンフレット、各種の説教や獄中書簡等のタイプ複写、などオリジナル資料も豊富である。

b. 医学分館

① Trendelenburg & Krayer's Collection of Scientific Papers

15,300論文 308冊

トレンドバーグ及びクライヤー両教授に献呈された薬理学・生理学分野の論文別刷の15,300編（洋書300冊）。ベルリン大学薬理学教授のP. Trendelenburg（1884～1931）博士と、その教え子であったハーバード大学薬理学教授のO. Krayer（1887～1985）博士が、薬理学及び生理学並びにその関連領域の優れた論文を選び収集されたものである。

これらの論文は、19世紀から20世紀（～1960年）までの薬理学・生理学分野での学問的発展を辿ることができる貴重なコレクションである。

② 青木大輔博士コレクション

700点

医学博士青木大輔（1901～1967）がライフワークとして収集された医史学及び疫病史に関するコレクションである。

主として東北地方の過去帳から採集された疫病死のデータを始め、鈴木省三（雨香）から継承した仙台藩医学校から東北大学医学部に至る医育史や仙台藩ゆかりの学者及び仙台藩医学校歴代学頭などに関する資料・書軸等を含んでいる。

7. 利用対象在籍者数（キャンパス別）

平成20年5月1日現在

単位：人

区 分	部 局	教 職 員	学 生	計
川内地区	文学部・文学研究科	110	1,365	1,475
	教育学部・教育学研究科	46	472	518
	法学部・法学研究科	78	1,086	1,164
	経済学部・経済学研究科	81	1,460	1,541
	国際文化研究科	64	197	261
	高等教育開発推進センター	73		73
	その他	211	42	253
	小 計	663	4,622	5,285
星陵地区	医学部・医学系研究科	355	2,019	2,374
	歯学部・歯学研究科	122	504	626
	その他	1,889	40	1,929
	小 計	2,344	2,563	4,929
青葉山地区	理学部・理学研究科	372	2,239	2,611
	薬学部・薬学研究科	85	578	663
	工学部・工学研究科	556	5,732	6,288
	情報科学研究科	102	427	529
	環境科学研究科	68	312	380
	その他	137	54	191
	小 計	1,320	9,342	10,662
雨宮地区	農学部・農学研究科	174	1,040	1,214
	その他	4		4
	小 計	178	1,040	1,218
片平地区	生命科学研究所	91	320	411
	研究所	608		608
	その他	393		393
	小 計	1,092	320	1,412
合 計		5,619	17,887	23,506

注・在籍者数は、東北大学概要による。

- ・在籍者は地区をこえて図書館を利用するので、上記の数字はそのまま各地区（本館又は分館）の利用者数を意味するものではない。
- ・学生には、附属学校生、医療技術短期大学部生、大学院生を含む。

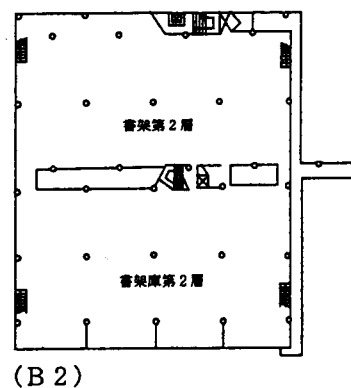
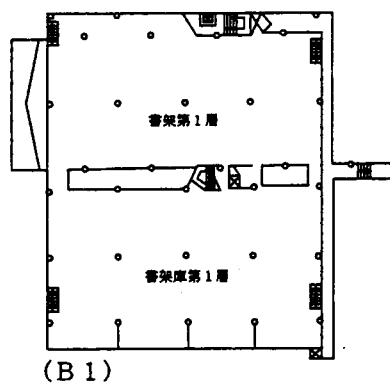
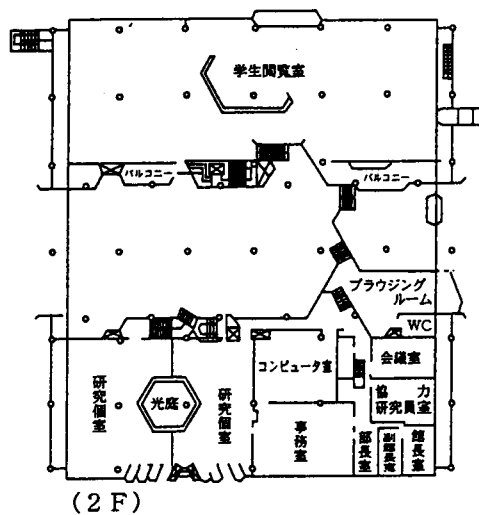
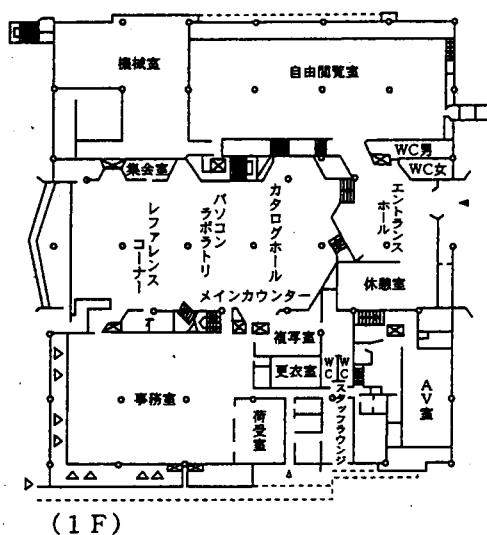
8. 施設（延床面積）

平成20年5月1日現在

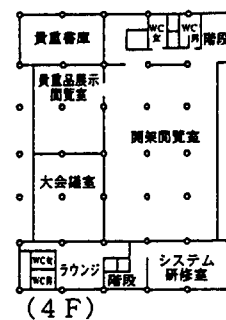
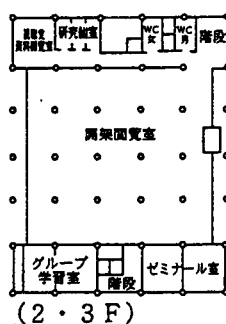
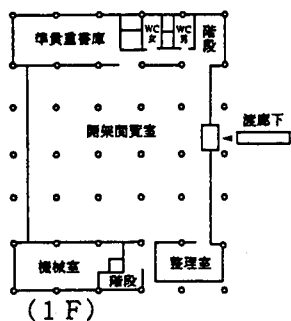
区 分	総 延 面 積 (㎡)	サービススペース (㎡)				管理スペース (㎡)		その他 (㎡)	閲覧座席 (席)
		閲 覧	視聴覚	情報端末	その他	書庫	事務		
本館(1・2号館)	18,215	5,706	151	240	1,220	4,729	3,244	2,925	1,152
医 学 分 館	4,476	688	8	61		2,384	416	919	431
北青葉山分館	3,356	1,140	1	7	216	1,310	360	322	248
工 学 分 館	5,355	2,460	223	10	553	605	413	1,091	348
農 学 分 館	1,279	317	9	10	121	418	56	348	105

(1) 本館

【1号館】

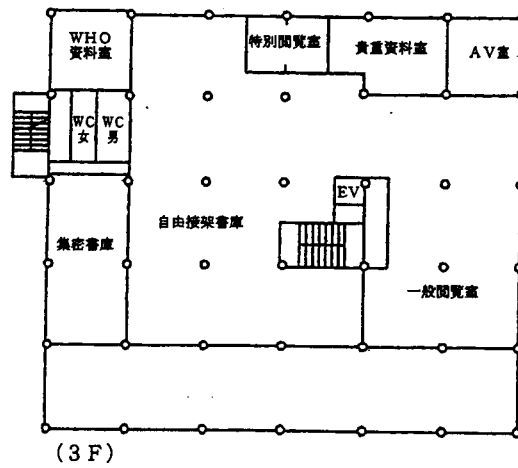
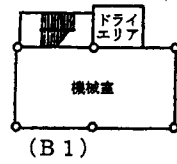
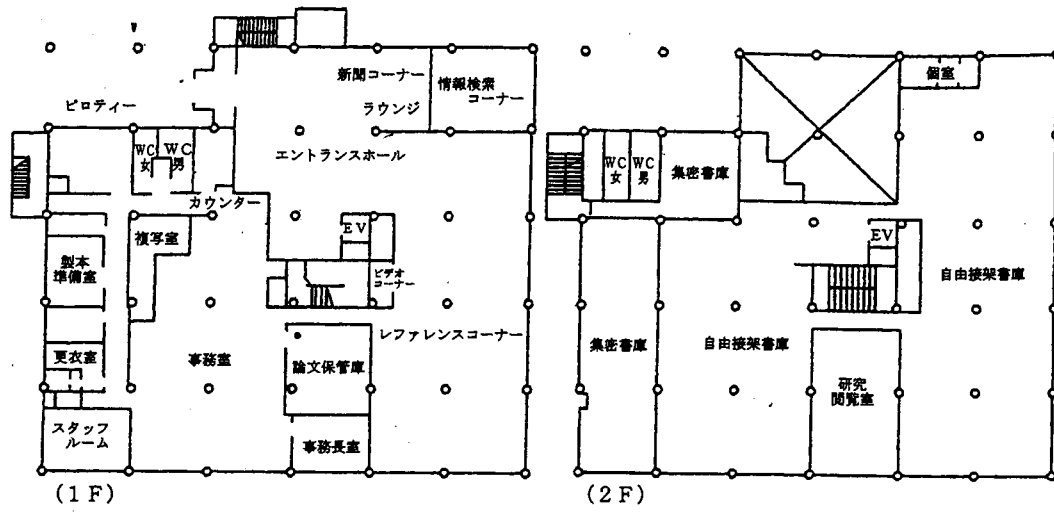


【2号館】



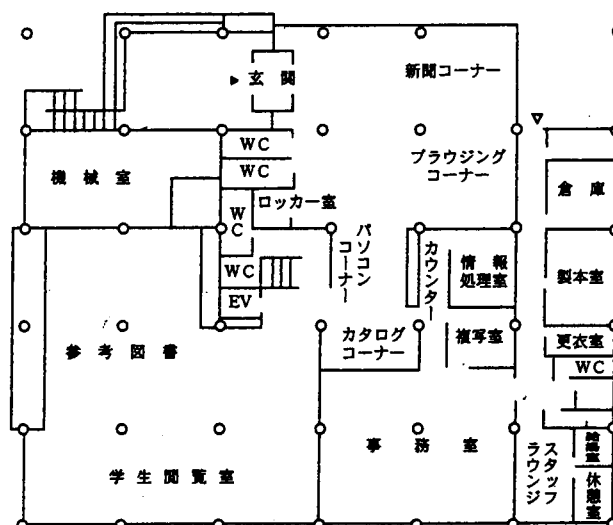
(2) 医学分館

〈平面図〉

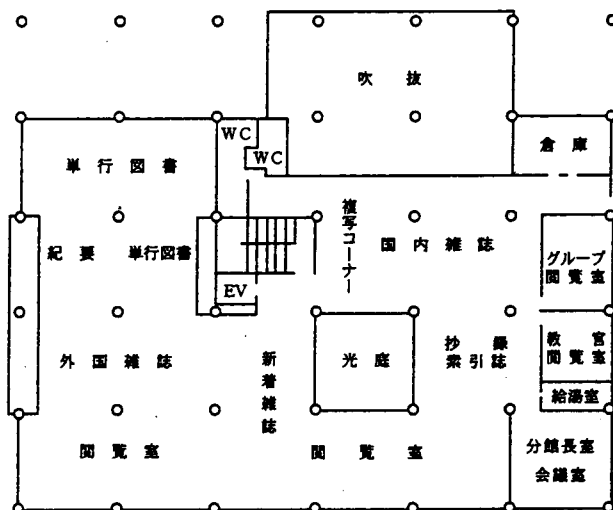


(3) 北青葉山分館

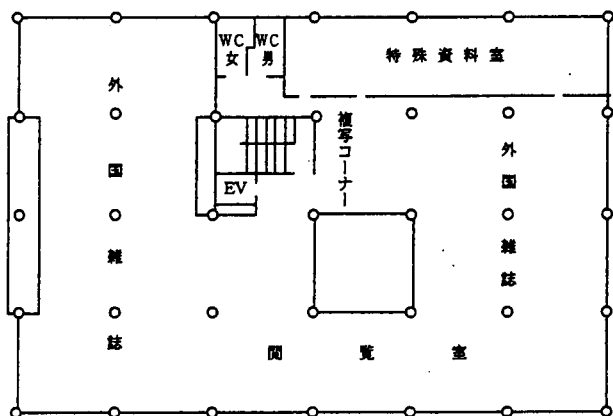
〈平面図〉



(1 F)



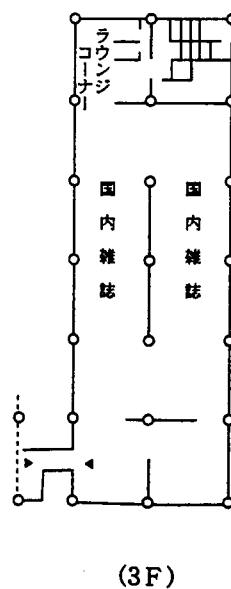
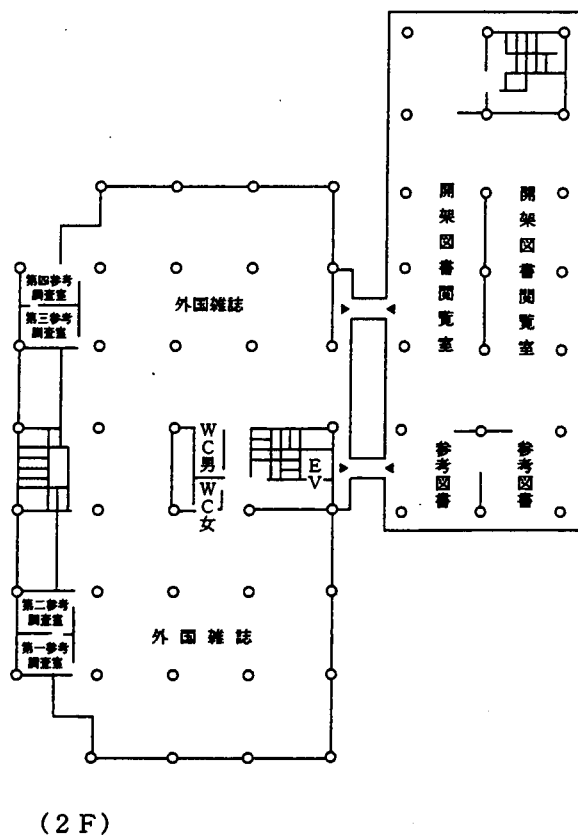
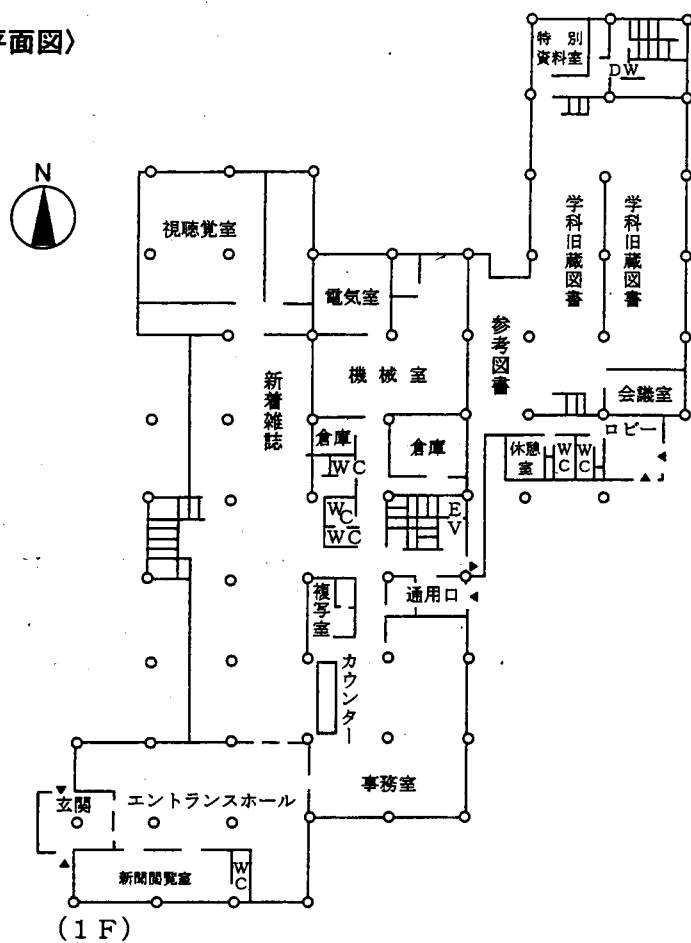
(2 F)



(3 F)

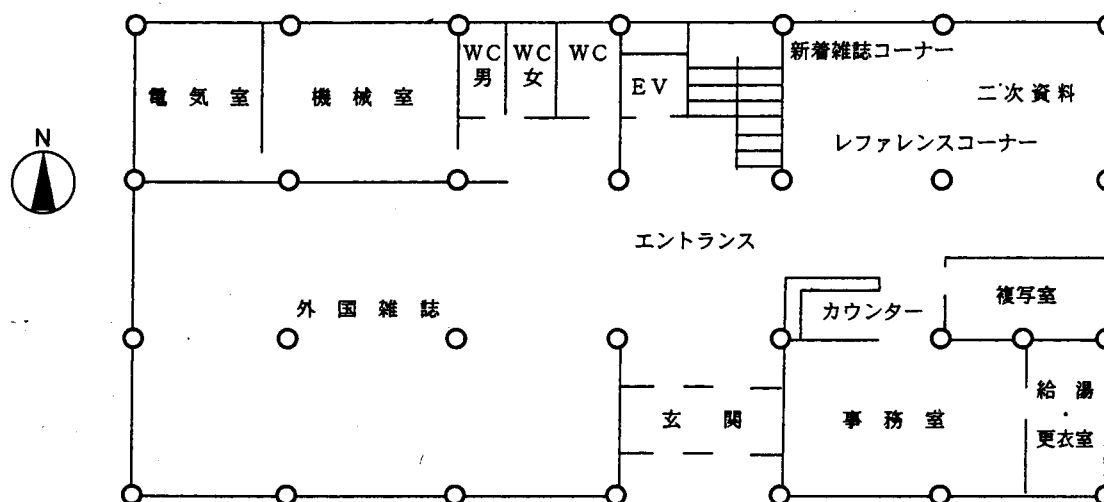
(4) 工学分館

〈平面図〉

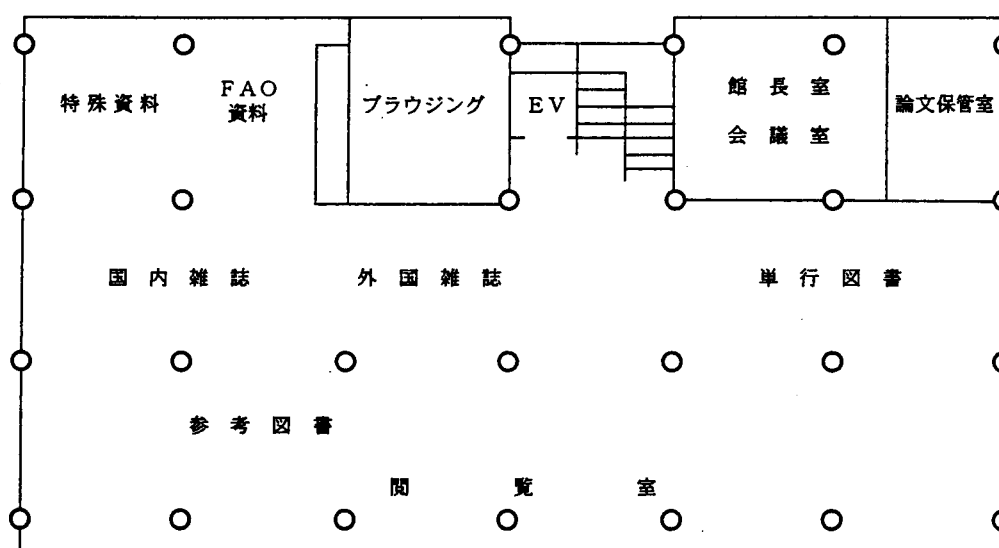


(5) 農学分館

〈平面図〉



(1 F)



(2 F)

9. 利用者用端末台数

図書館名	台 数
本 館	7 3
医 学 分 館	4 7
北青葉山分館	1 4
工 学 分 館	2 9
農 学 分 館	1 3
部局図書室	7
合 計	1 8 3

〔Ⅱ〕 活動状況（平成19年度）

1. 1年の歩み

平成19年	4月	新入生のための図書館利用オリエンテーション 百周年記念展示打合せ会 夏目漱石展合同会議 理工系学生のための図書館講習会 NEC 定例会議 附属図書館運営会議（第1回）
	5月	オール東北大学展小作業部会 百周年記念展示企画実行 WG 外国雑誌センター打合せ 日・EU フレンドシップウィーク展 蔵書検索講習会（基本編） 目録システム講習会説明会 学術情報整備 WG 目録講習会（図書コース）打合せ 東北大学の至宝展イベント打合せ 理工系学生のための図書館講習会 記念展示関係打合せ 図書館情報教育支援 WG 附属図書館運営会議（第2回） 目録システム地域講習会
	6月	目録システム地域講習会（図書コース） 附属図書館商議会（第1回） 新分館仕様検討班打合せ オール東北大学展小作業部会 広報委員会 NEC 定例会議 収書 WG 打合せ 学術情報整備 WG 全学図書係長等会議 便利堂打合せ

藤野先生と魯迅先生の胸像の除幕式
木這子編集委員会
学術情報戦略会議
学術情報整備（合同）会議（第1回）
文献探索講習会

7月 文献探索講習会
オール東北大学展小作業部会
SFS 講習会
展示 WG
東北大学の至宝展施工業者打合せ
附属図書館運営会議（第3回）
漱石展ガイドブック事前調査
資産データベース打合せ
書庫入庫ガイダンス
目録講習会講師・補助者事前打合せ
川内地区図書委員会
目録システム地域講習会
附属図書館商議会（第2回）

8月 新分館仕様検討班打合せ
百周年記念まつり展示担当打合せ
東北地区大学図書館協議会幹事館会議
第3回展示 WG
齋藤家委員会打合せ
至宝展図録打合せ
齋藤家史料整理検討委員会
学外者のための図書館利用講習会
学術情報発信 WG（第1回）
漱石展打合せ
大学情報 DB／TOUR 連携打合せ
学術情報戦略会議（第3回）

9月 図書館情報教育支援 WG（第2回）
NEC 定例会議

分野別 WG（人文）
雑誌選定一分野別 WG（生命）
漱石展打合せ
江戸博イベント対応引継・打合せ
木這子編集委員会
学術情報整備（合同）会議

- 10月 総合研修委員会
入庫ガイダンス
新分館仕様検討班打合せ
常設展示打合せ
附属図書館運営会議（第4回）
学術情報戦略会議（第4回）
本館増改築再検討 WG
市博イベント打合せ
「基礎知識」（基本編）改訂作業打合せ
附属図書館商議会（第3回）
百周年記念展示小作業部会
基礎知識英語版改定打合せ
NEC 定例会議
収書委員会（第2回）
文献探索講習会
情報発信 WG
- 11月 本館増改築再検討 WG
図書館情報教育支援 WG（第3回）
NEC 定例会議
- 12月 本館増改築再検討 WG
新分館仕様検討班打合せ（第7回）
東北地区大学図書館協議会研修検討 WG 会議
基礎知識（基本編）打合せ
広報委員会
リゾルバ打合せ
附属図書館運営会議（第5回）

		学術情報戦略会議（第5回） 図書館計画 WG 会議 附属図書館商議会（第4回） 図書電子化委員会 図書館情報教育支援 WG（第4回）
平成20年	1月	新分館仕様検討打合せ 自動化書庫導入打合せ 本館増改築再検討 WG NEC 定例会議 学術情報発信 WG（第3回） 学術情報整備 WG 学術情報流通改革 WG 打合せ 学情整備検討委員会・事前打合せ 「情報の科学と技術」原稿執筆の打合せ 学術情報整備検討委員会（第3回）
	2月	工分情報教育支援 WG 漢籍打合せ 収書委員会（第3回） 附属図書館運営会議（第6回） 附属図書館商議会（第5回） 基礎知識・基本編打合せ 貴重書 DB プロジェクト（第1回） 「情報の科学と技術」原稿打合せ 本館増改築再検討 WG 情報探索の基礎知識・基礎編打合せ 情報教育支援 WG 工分情報教育支援 WG 収書委員会（第4回） 全学図書系係長等会議（第2回）
	3月	金研図書電子化委員会 和漢古書整理教室 学術情報整備検討委員会（第4回）

基礎知識英語版打合せ
学術情報戦略会議事前打合せ
学術情報戦略会議（第6回）
工分情報教育支援 WG
認証基盤 WG
木這子編集委員会
本館係長会議
外邦図 DB 事前打合せ
NEC 定例会議
附属図書館商議会（第6回）
外邦図に関する打合せ
全学図書系係長等会議（第3回）

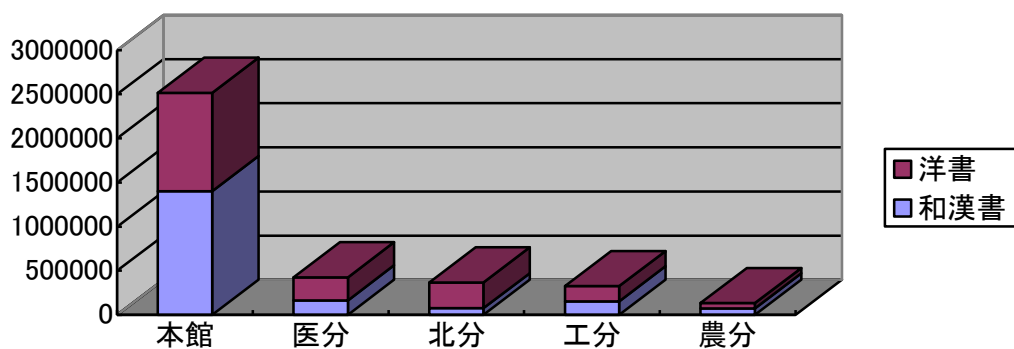
2. 所蔵冊数

1) 図書

単位：冊

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和漢書	1,402,401	165,014	74,592	154,091	72,766	1,868,864
洋書	1,115,262	261,419	293,219	171,742	60,456	1,902,098
合計	2,517,663	426,433	367,811	325,833	133,222	3,770,962

図書(単位:冊)



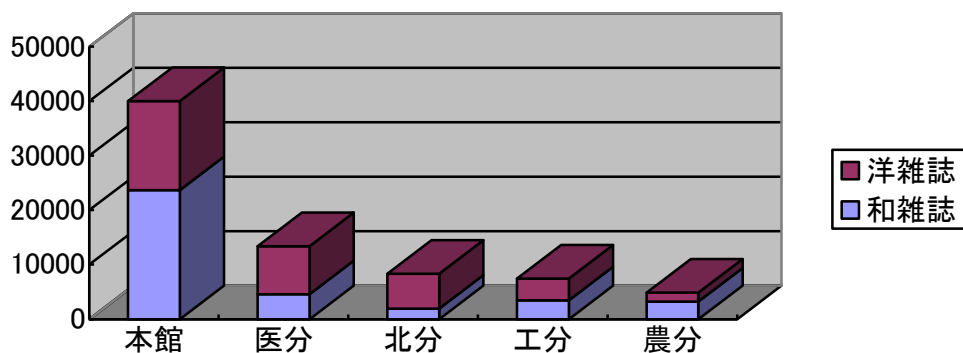
2) 雑誌

単位：種類

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和雑誌	23,671	4,551	1,932	3,460	3,194	36,808
洋雑誌	16,338	8,840	6,381	3,996	1,685	37,240
合計	40,009	13,391	8,313	7,456	4,879	74,048

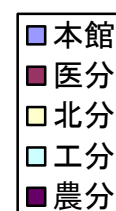
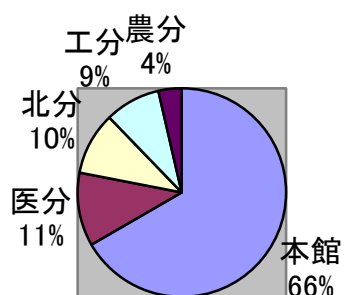
注) 片平地区の研究所・研究科、及び青葉山地区のサイクロトロン・RIセンターの受入資料は本館に含まれている。

雑誌(単位:種類)

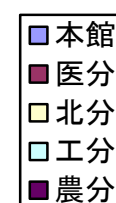
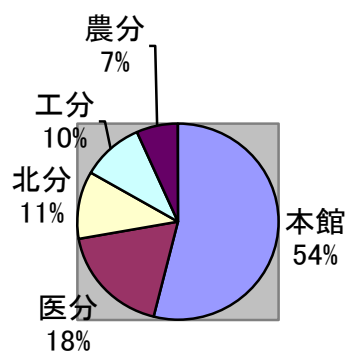


(3) 本館・分館別所蔵

区分	図書	
	全所蔵冊数	比率%
本館	2,517,663	66.8
医学分館	426,433	11.3
北青葉山分館	367,811	9.8
工学分館	325,833	8.7
農学分館	133,222	3.5
計	3,770,962	100.0



区分	雑誌	
	全所蔵種類数	比率%
本館	40,009	54.0
医学分館	13,391	18.1
北青葉山分館	8,313	11.4
工学分館	7,456	10.1
農学分館	4,879	6.6
計	74,048	100.0



3. 資料の収集（受入）

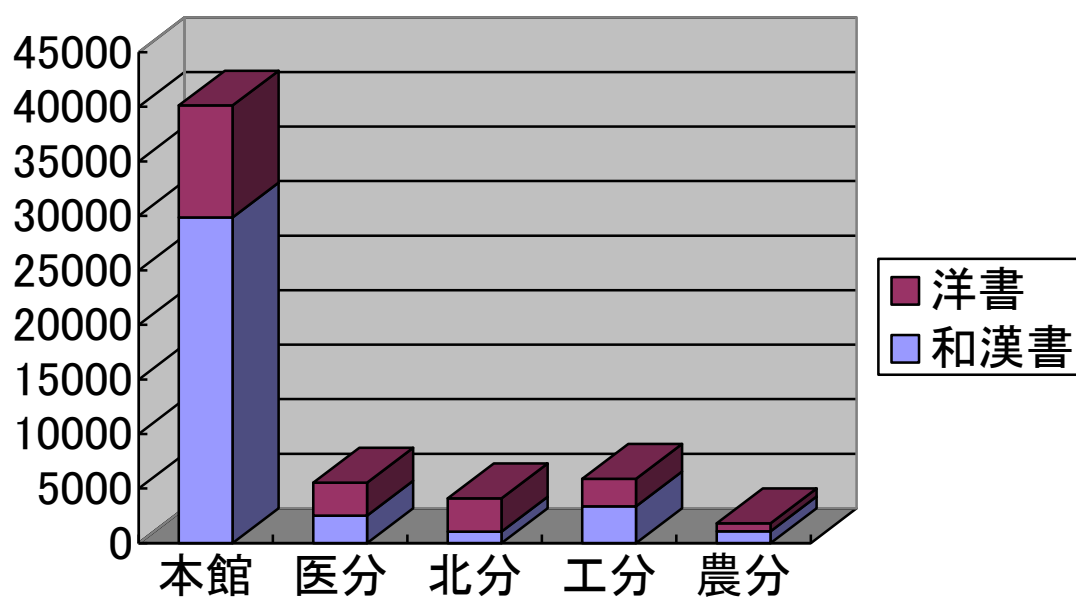
（1）収書種別

①図書

単位：冊

区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和漢書	購入	15,067	2,166	639	2,730	644	21,246
	寄贈等	10,590	354	200	637	149	11,930
	その他	4,185		202	0	280	4,667
洋書	購入	5,495	2,926	283	2,196	95	10,995
	寄贈等	2,194	95	545	329	9	3,172
	その他	2,576	0	2,238	0	632	5,446
合計		40,107	5,541	4,107	5,892	1,809	57,456

図書（単位：冊）



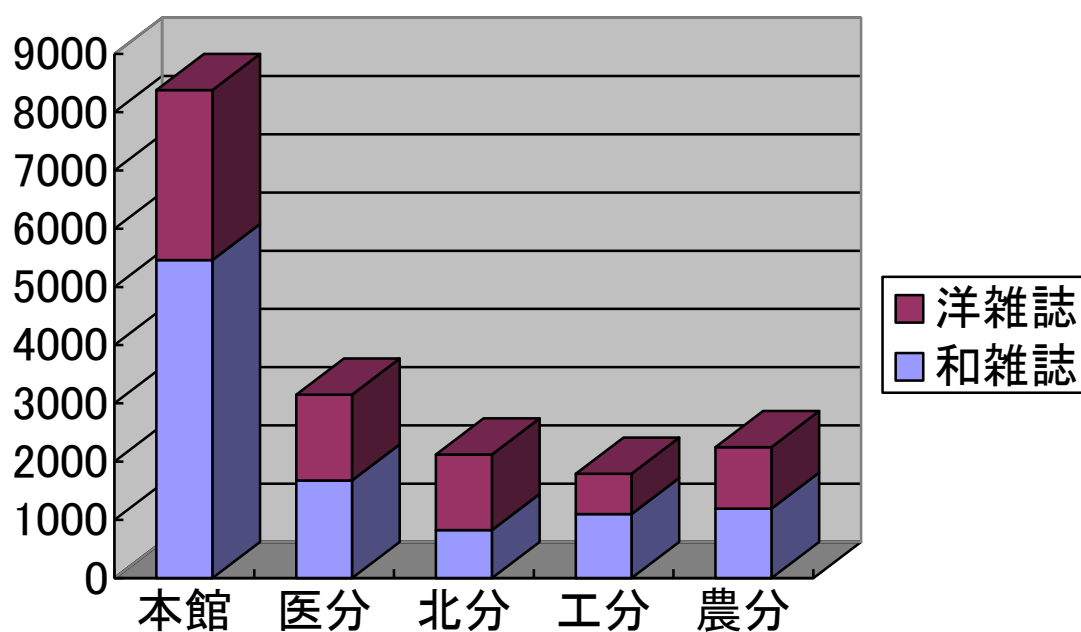
②雑誌

単位：種類

区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
和 雑 誌	購入	1,389	559	123	253	166	2,490
	寄贈等	4,061	1,119	701	845	1,027	7,753
	その他	10	0	0	0	0	10
洋 雑 誌	購入	1,934	954	529	601	179	4,179
	寄贈等	796	236	718	80	145	1,975
	その他	191	283	49	11	40	574
合計		8,381	3,151	2,120	1,790	1,557	16,999

注)・片平地区の研究所・研究科、及び青葉山地区のサイクロトロン・RIセンターの受入資料は本館に含めている。

雑誌(単位:種類)



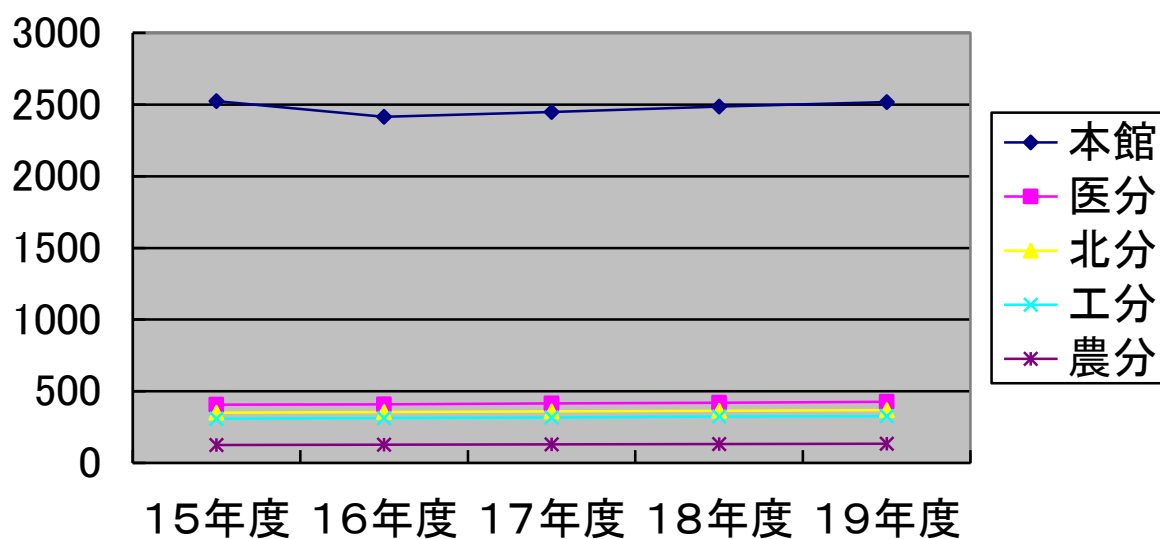
(4) 年度別推移

①図書所蔵冊数の年度別推移

単位：千冊

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	2,523.3 (100)	2,415.6 (96)	2,449.2 (97)	2,485.9 (99)	2,517.6 (100)
医学分館	406.1 (100)	409.1 (101)	415.8 (102)	420.8 (104)	426.4 (105)
北青葉山分館	351.8 (100)	355.8 (101)	359.7 (102)	364.2 (104)	367.8 (105)
工学分館	307.6 (100)	311.7 (101)	317.4 (103)	324.1 (105)	325.8 (106)
農学分館	126.5 (100)	128.4 (102)	129.7 (103)	131.4 (104)	133.2 (105)
合計	3,715.3	3,621.4	3,672.0	3,726.7	3,770.9

図書(単位:千冊)



②雑誌所蔵種類数の年度別推移

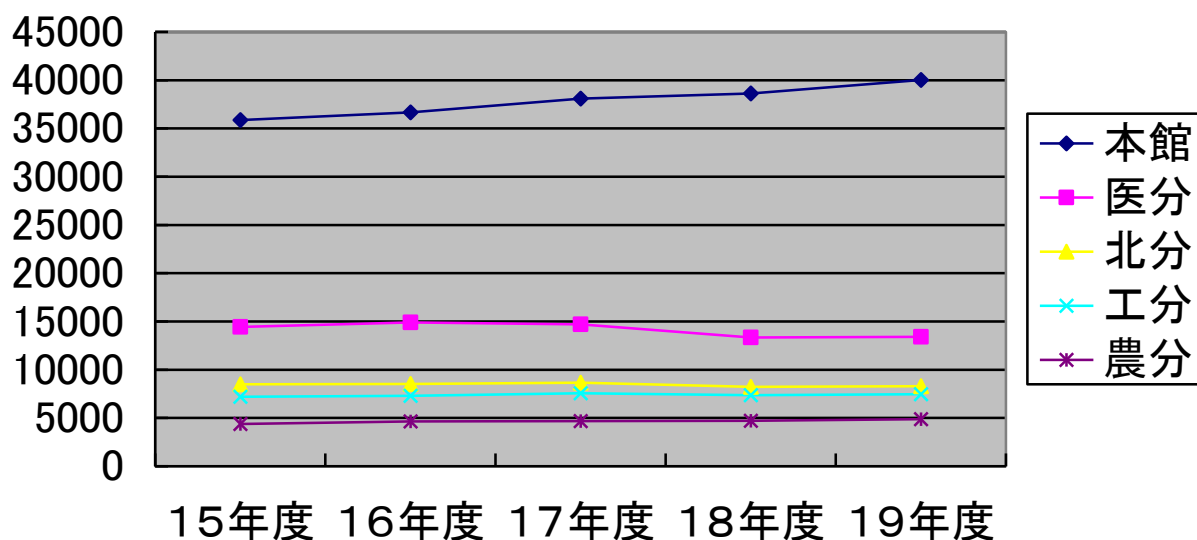
単位：千冊

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	35,870 (100)	36,670 (102)	38,103 (106)	38,633 (108)	40,009 (112)
医学分館	14,441 (100)	14,901 (103)	14,708 (102)	13,337 (92)	13,391 (93)
北青葉山分館	8,480 (100)	8,542 (101)	8,664 (102)	8,241 (97)	8,313 (98)
工学分館	7,195 (100)	7,287 (101)	7,564 (105)	7,366 (102)	7,456 (104)
農学分館	4,370 (100)	4,630 (106)	4,682 (107)	4,708 (108)	4,879 (112)
合計	70,356	72,030	73,721	72,285	74,048

() 内は15年度を100とした指数を示す。

注) 片平地区の研究所・研究科、及び青葉山地区のサイクロトロン・RI センターの受入資料は本館に含めている。

雑誌(単位:種類)



4. 電子的サービス

(1) 電子的コレクション

電子的コレクション名	タイプ	件数
貴重書展示室	視覚資料（画像）	107 点
狩野文庫画像 DB	視覚資料（画像）	724 点
狩野文庫高精細画像	視覚資料（高精細画像）	8 点
漱石文庫資料 DB	視覚資料（画像）	700 点
秋田家史料 DB	視覚資料（画像）	400 点
和算ポータル	視覚資料（画像）	5,314 点

(2) 電子的レファレンス

レファレンス名称	種類数	提供元
Web of Science (SCIE:1900-SSCI:1980-A&HCI :1980-), JCR, ESI		Thomson Scientific
MEDLINE, Biological Abstracts, BA with RPM, ERIC, PsycINFO, Current Contents, CINAHL, EBMR,		OVID
雑誌記事検索 Web 版		日外アソシエーツ
MathSciNet		American Mathematical Society
河北新報データベース (KD)		河北新報社
Times Digital Archive		Thomson Gale
大宅壮一文庫雑誌記事索引 Web		大宅壮一文庫
INIS		IAEA
JapanKnowledge		ネットアドバンス
MLA International Bibliography Web 版		ProQuest Information and Learning
SciFinder Scholar		Chemical Abstracts Service(CAS)
CrossFire(Beilstein, Gmelin)		Elsevier MDL
Periodicals Index Online		ProQuest Information and Learning
医中誌 Web		医学中央雑誌刊行会
朝日新聞データベース (聞蔵)		朝日新聞社
その他		
合計	約 70	

5. 開館状況（開館日数）

開館日数は下記の通りである。時間外開館とは、通常の勤務時間を超えて行う開館（平日の17時以降及び土曜日）のことである。

単位：日

区 分	開 館 日 数				時 間 外 開 館 時 間 数			
	平 日	土 曜	休 日	計	平 日	土曜日	休 日	計
本 館	236	48	64	348	736	366	488	1,590
医 学 分 館	243	※ 50	※ 62	355	1,749	※ 750	※ 930	3,429
北青葉山分館	238	※ 47	※ 71	240	2,618	※1,128	※1,704	5,450
工 学 分 館	236	※ 51	77	236	3,776	※1,224	※1,848	6,848
農 学 分 館	241	51	68	360	1,212	※ 627	※ 843	2,682

※医学分館、北青葉山分館、工学分館は入退館管理システムにより教職員に夜間も開放。農学分館は入退館管理システムにより教職員に午後8時まで開放。

6. 利用統計

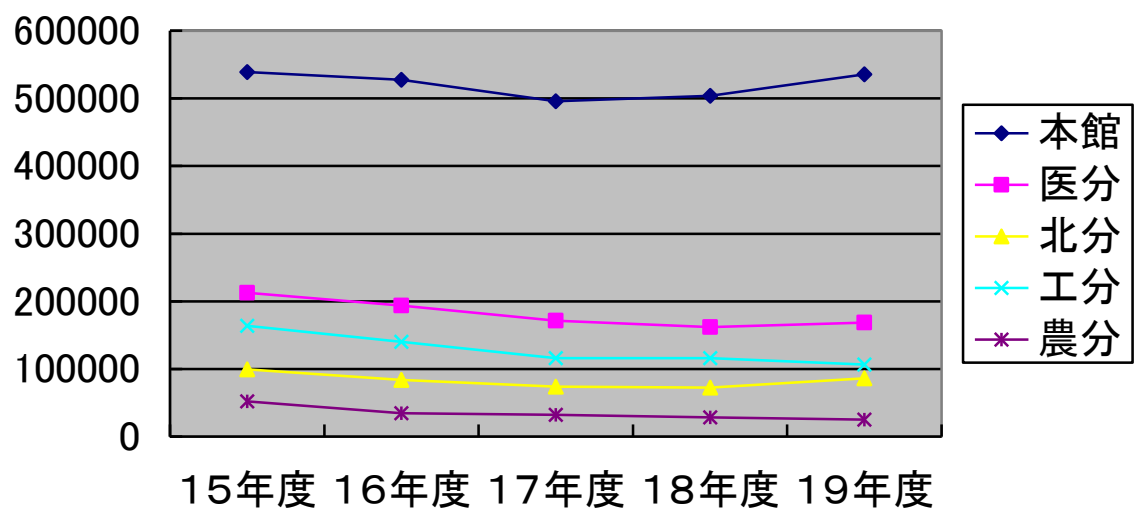
(1) 入館者

①入館者数の年度別推移

単位：人

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	538,923 (100)	527,487 (98)	495,844 (92)	503,791 (93)	535,505 (99)
医学分館	212,814 (100)	193,702 (91)	171,295 (80)	161,930 (76)	168,421 (79)
北青葉山分館	99,287 (100)	83,925 (85)	73,815 (74)	72,419 (73)	85,981 (87)
工学分館	163,972 (100)	140,150 (85)	116,093 (70)	116,241 (71)	106,322 (65)
農学分館	34,407 (100)	32,124 (93)	28,618 (83)	24,878 (72)	32,630 (95)
合計	1,049,403	977,388	954,445	879,259	928,859

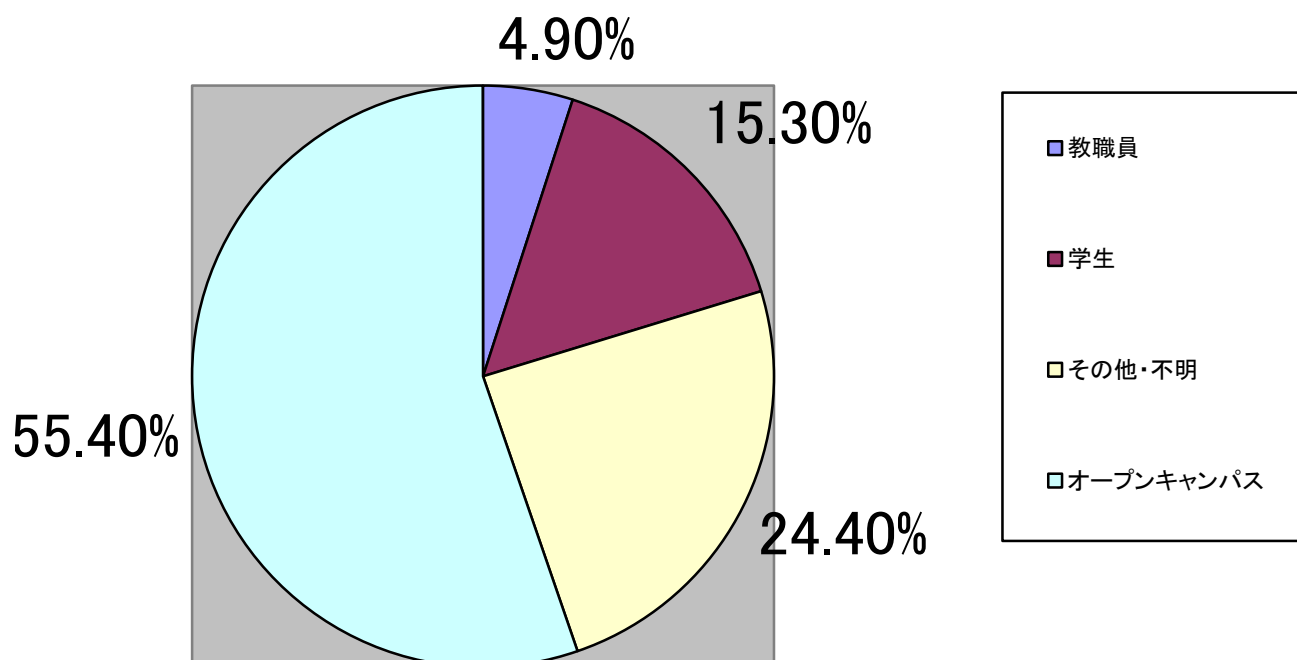
入館者(単位：人)



②学外者の利用状況（本館）

項目	平成 19 年度			
登録者数(有効な利用証所持者)	534 名			
貸出冊数（延べ冊数）	2, 230 冊			
ゲート入館者数（延べ人数）	13, 542 名			
受付経由入館者（延べ人数）	大学・短大・高専	教職員	290 名	4. 9%
		学生	900 名	15. 3%
	その他・不明		1, 437 名	24. 4%
	オープンキャンパス		3, 269 名	55. 4%
	合計		5, 896 名	100. 0%

学外からの入館者(受付経由入館者)



(2) 資料の貸出

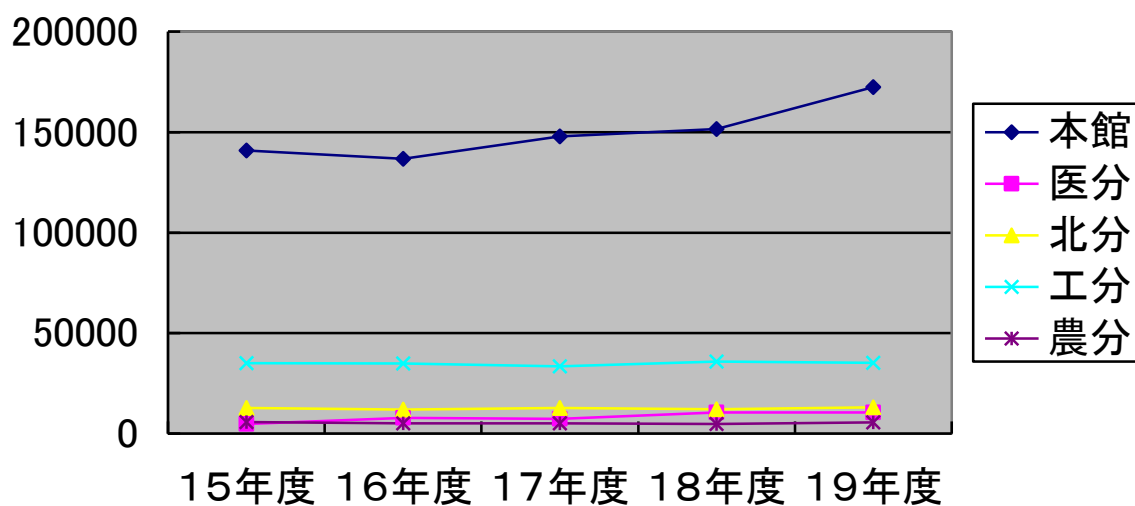
①貸出冊数

単位：冊

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	140,899 (100)	136,672 (97)	147,861 (105)	151,478 (108)	172,483 (122)
医学分館	4,758 (100)	7,876 (166)	7,292 (153)	10,501 (221)	10,493 (221)
北青葉山分館	12,784 (100)	12,019 (94)	12,723 (100)	12,119 (95)	13,087 (102)
工学分館	35,074 (100)	34,864 (99)	33,482 (95)	35,832 (102)	35,242 (100)
農学分館	5,804 (100)	5,120 (88)	5,084 (88)	4,714 (81)	5,539 (95)
合計	199,319	196,551	206,442	207,157	236,844

() 内は15年度を100とした指数を示す

貸出冊数(単位：冊)

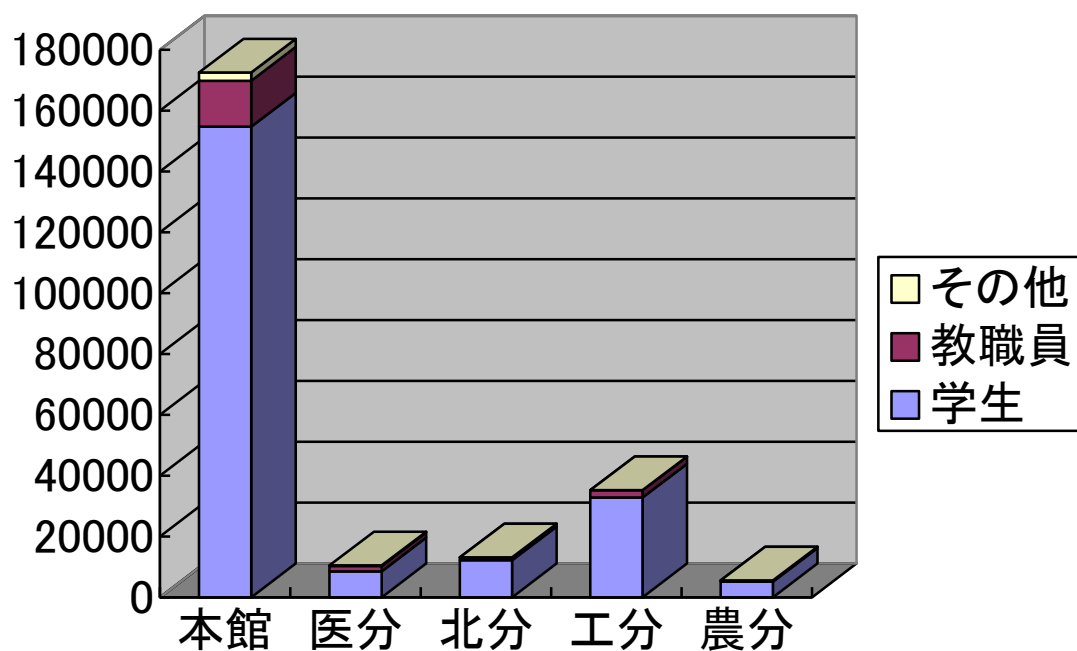


②利用者別貸出冊数

単位：冊

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
学生	154,664	8,517	12,149	32,760	5,115	213,205
教職員	15,136	1,754	938	2,482	424	20,734
その他	2,683	222	0	0	0	2,905
合計	172,483	10,493	13,087	35,242	5,539	236,844

利用者別貸出冊数(単位：冊)



③資料種別貸出冊数（本館）

ア) 閉架資料

a. 資料種別貸出冊数

区 分	冊 数	比 率(%)
新分類	43,542	67.31
片平分類	5,243	8.11
旧教養分類	3,299	5.10
雑誌	43	0.07
狩野文庫	1,321	2.04
古典資料	1,280	1.98
個人文庫	354	0.55
経済統計	0	0.00
その他	9,606	14.85
合計	64,688	100.00

注) 館内閲覧冊数を含む。

b. 利用者別貸出冊数

区 分	冊 数	比 率(%)
教職員	9,683	14.97
学生	50,062	77.39
その他	4,943	7.64
合計	64,688	100.00

イ) 開架資料

a. 資料分野別貸出冊数

区 分	冊 数	比 率(%)
自然科学	28,739	32.72
人文科学	23,216	26.44
社会科学	30,319	34.52
雑誌等	5,548	6.32
合計	87,822	100.00

b. 利用者別貸出冊数

区 分	冊 数	比 率(%)
教職員	1,864	2.12
学生	84,415	96.12
その他	1,543	1.76
合計	87,822	100.00

④学生の学部等別電算貸出冊数 [本館開架資料]

学部等別・地区別

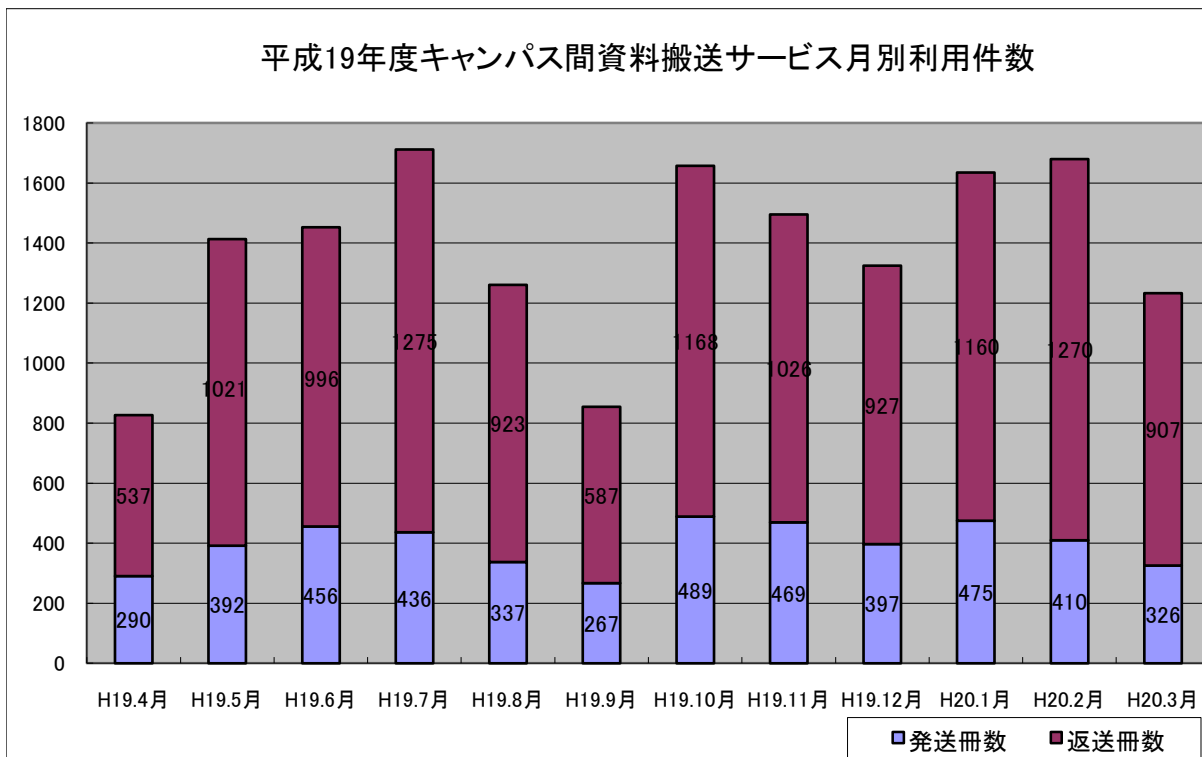
単位：冊

部 局	冊 数	比 率 (%)	地 区	冊 数	比 率 (%)
国際文化研究科	2,549	3.02	川内地区	46,926	55.59
文学部	20,215	23.95			
教育学部	4,647	5.50			
教育情報学教育部	509	0.60			
法学部	8,701	10.31			
経済学部	10,239	12.13			
医学部	1,921	2.28	星陵地区	2,150	2.55
歯学部	229	0.27	北青葉山地区	14,354	17.01
理学部	13,019	15.42			
薬学部	1,335	1.58	南青葉山地区	18,018	21.35
工学部	16,344	19.36			
情報科学研究科	999	1.18			
環境科学研究科	675	0.80	雨宮地区	2,616	3.10
農学部	2,616	3.10			
生命科学研究科	351	0.42	片平地区	351	0.42
合計	84,349	100.00		84,415	100.00

(3) キャンパス間資料搬送サービス

平成19年度キャンパス間資料搬送サービス 利用件数の推移

	発送利用件数	返送利用件数	合計
4月	290	537	827
5月	392	1,021	1,413
6月	456	996	1,452
7月	436	1,275	1,711
8月	337	923	1,260
9月	267	587	854
10月	489	1,168	1,657
11月	469	1,026	1,495
12月	397	927	1,324
1月	475	1,160	1,635
2月	410	1,270	1,680
3月	326	907	1,233
合計	4,744	11,797	16,541



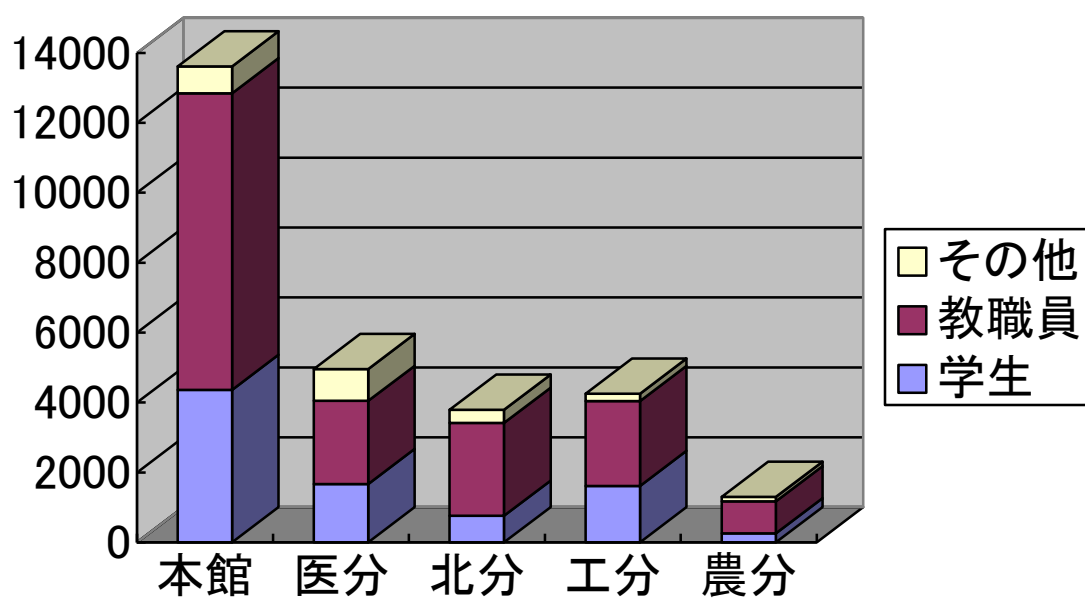
(4) 参考調査

①利用者別参考調査件数

単位：件

区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
学 内 者	教職員	4,363	1,666	759	1,616	261	8,665
	学生	8,485	2,380	2,656	2,424	913	16,858
学外者		764	913	380	213	131	2,401
合計		13,612	4,959	3,795	4,253	1,305	27,924

利用者別(単位：件)

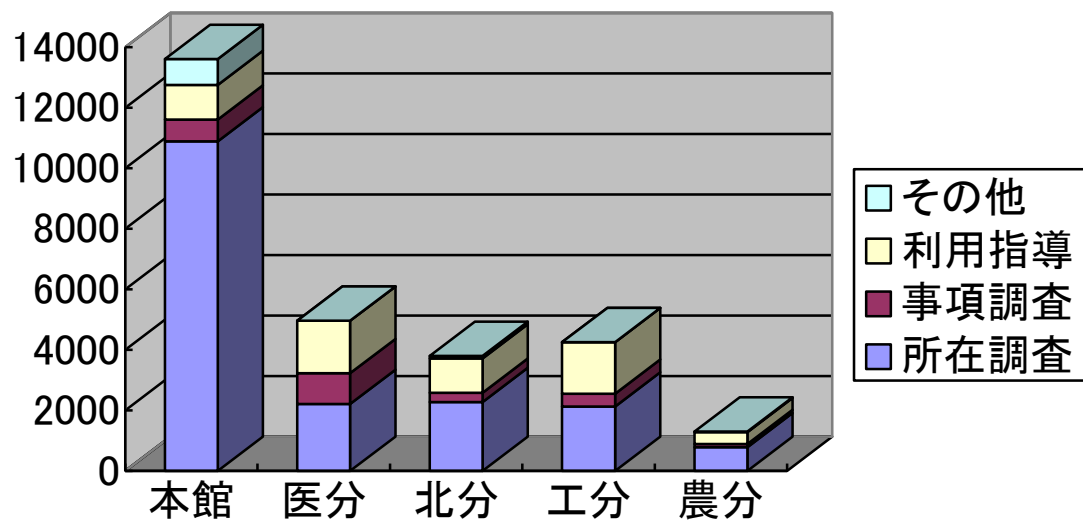


②業務内容別参考調査件数

単位：件

区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
所在調査	10,893	2,209	2,276	2,126	783	18,287
事項調査等	716	1,018	304	425	104	2,567
利用指導	1,140	1,732	1,140	1,702	391	6,105
その他	863	0	75	0	27	965
合計	13,612	4,959	3,795	4,253	1,305	27,924

業務内容別(単位：件)



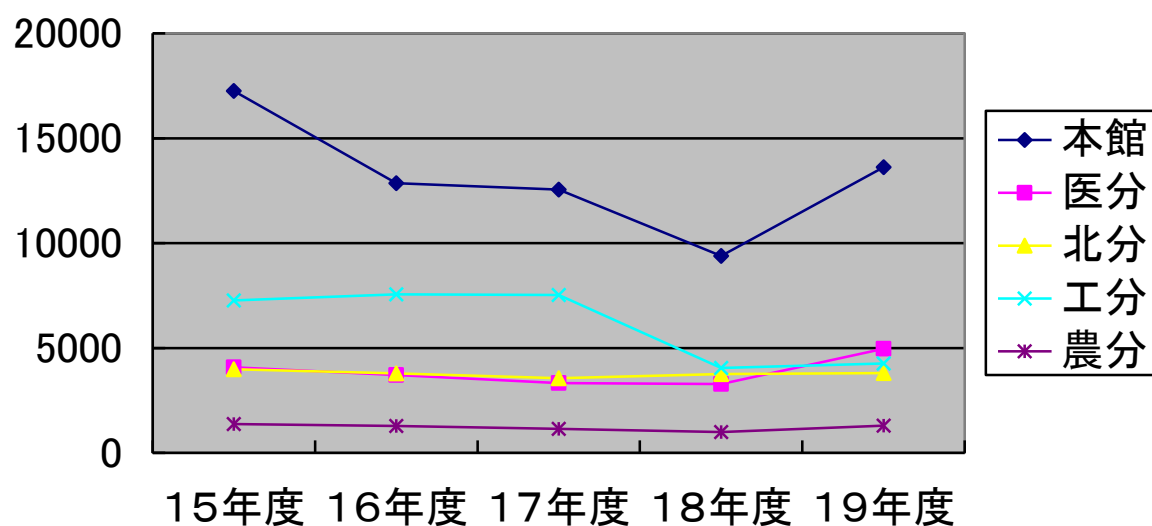
③参考調査件数の年度別推移

単位：件

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	17,247 (100)	12,850 (75)	12,542 (73)	9,389 (54)	13,612 (79)
医学分館	4,080 (100)	3,717 (91)	3,322 (81)	3,275 (80)	4,959 (122)
北青葉山分館	3,981 (100)	3,792 (95)	3,555 (89)	3,760 (94)	3,795 (95)
工学分館	7,260 (100)	7,552 (104)	7,520 (104)	4,040 (56)	4,253 (59)
農学分館	1,376 (100)	1,285 (93)	1,144 (83)	995 (72)	1,305 (95)
合計	33,944	29,196	28,083	22,069	27,924

() 内は15年度を100とした指数を示す

参考調査件数年度別(単位：件)



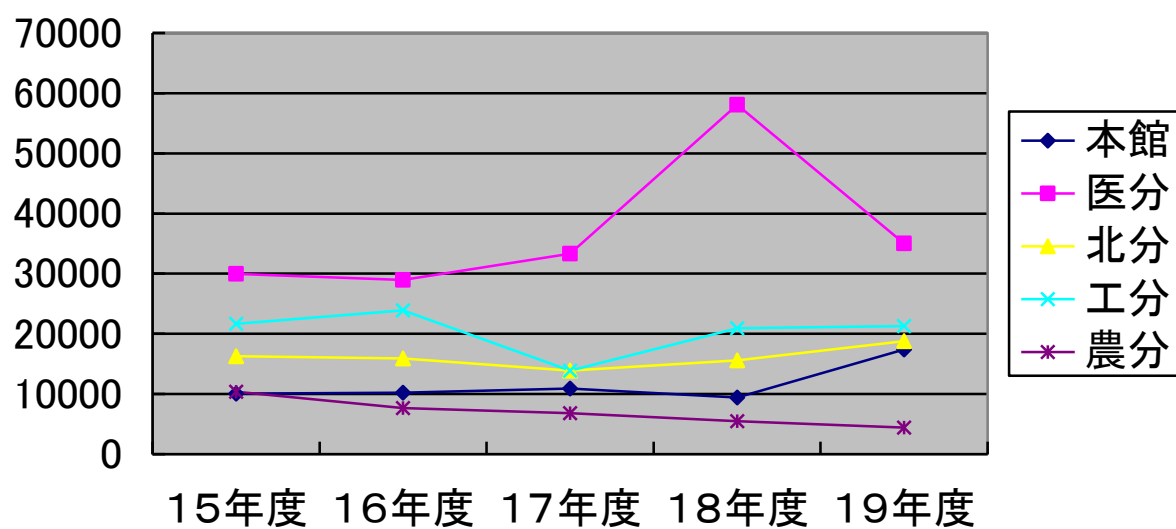
(5) 文献複写

①文献複写件数の年度別推移

単位：件

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	10,083 (100)	10,212 (101)	10,901 (108)	9,412 (93)	17,421 (173)
医学分館	29,977 (100)	28,975 (97)	33,348 (111)	58,065 (194)	67,759 (226)
北青葉山分館	16,272 (100)	15,904 (98)	13,884 (85)	15,615 (96)	13,769 (85)
工学分館	21,658 (100)	23,885 (110)	13,867 (64)	20,906 (97)	21,367 (98)
農学分館	10,388 (100)	7,653 (74)	6,794 (65)	5,494 (53)	4,433 (42)
合計	88,378	86,629	78,794	109,492	124,749

文献複写件数(単位：件)



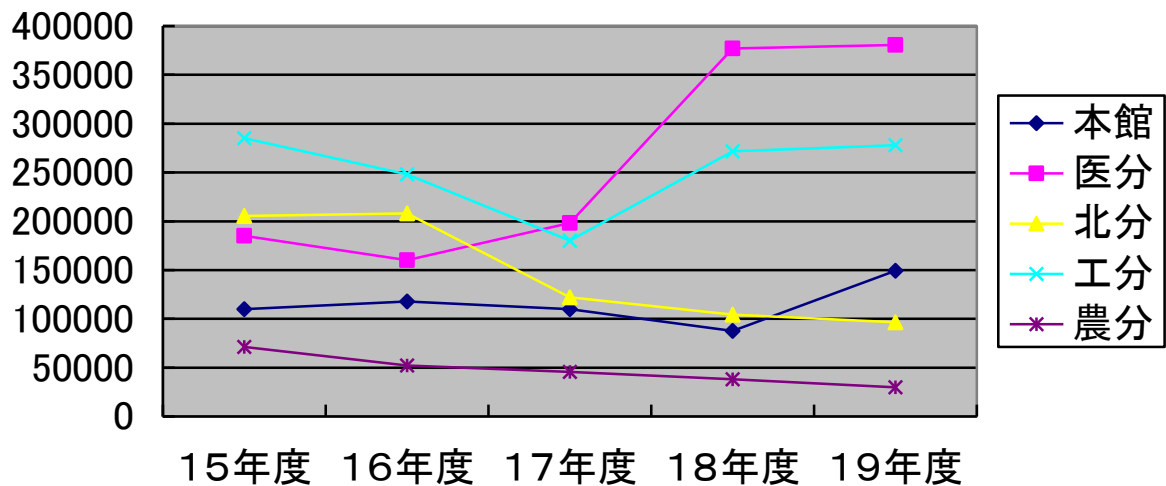
②文献複写枚数の年度別推移

単位：件

区分	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
本館	109,766 (100)	117,958 (107)	110,076 (100)	87,659 (80)	149,329 (136)
医学分館	185,063 (100)	160,185 (87)	198,357 (107)	377,043 (204)	380,498 (206)
北青葉山分館	205,507 (100)	208,093 (101)	122,017 (59)	104,390 (51)	96,552 (47)
工学分館	285,136 (100)	248,208 (87)	180,275 (63)	271,776 (95)	277,771 (97)
農学分館	71,360 (100)	52,191 (73)	45,715 (64)	38,033 (53)	29,991 (42)
合計	856,832	786,635	656,440	878,901	934,141

() 内は15年度を100とした指数を示す

文献複写枚数(単位:枚)



③依頼者別文献複写件数

単位：件

区分		本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
学内者		9,714	22,253	9,292	17,076	1,697	60,032
学 外 者	大学	7,178	14,569	3,614	3,325	2,367	31,053
	その他	529	30,937	863	966	369	33,664
合計		17,421	67,759	13,769	21,367	4,433	124,749

(6) 図書館間相互協力

①現物貸借（貸出・借受別）

単位：冊

区分			本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
貸 出	国内	大学図書館	1,091	17	48	124	20	1,300
		その他の図書	44	0	3	20	0	67
	国外	図書・雑誌	4	0	0	0	0	4
		合計	1,130	17	51	144	20	1,371
借 受	国内	大学図書館	1,618	48	60	394	24	2,144
		その他の図書	127	1	0	8	2	138
	国外	図書・雑誌	12	0	0	2	0	14
		合計	1,757	49	60	404	26	2,286

②文献複写件数（受付・依頼別）

単位：件

区分			本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
受 付	国内	大学図書館	6,884	14,569	4,083	3,869	2,367	31,772
		その他の図書	527	1,091	863	955	369	3,805
	国外	図書・雑誌	108	0	0	11	0	119
		合計	7,519	15,660	4,946	4,835	2,736	35,696
依 頼	国内	大学図書館	5,682	2028	1,128	2,150	755	11,743
		その他の図書	779	2	9	40	16	846
	国外	図書・雑誌	60	36	9	30	3	78
		合計	6,521	2,066	1,146	2,220	774	12,667

7. 利用指導

(1) 本 館

①図書館利用ガイダンス

対 象：川内地区学部・研究科新入生

日 時：平成19年4月5日（木）～6日（金）、4月18日（水）

会 場：マルチメディア研究棟、各学部講義室、図書館会議室

参加人数：1,080名

②図書館オリエンテーション

対 象：新入生

日 時：平成19年4月10日（火）～12日（木）、4月19日（木）～20日（金）

会 場：本 館

参加人数：192名

③図書館利用ガイダンス

対 象：教育研究科・教育学部人間形成論講座（第1回：蔵書検索他）

日 時：平成19年4月17日（火）

会 場：本 館

参加人数：20名

④図書館利用ガイダンス

対 象：教育研究科・教育学部人間形成論講座（第2回：各種DB利用法他）

日 時：平成19年4月24日（火）

会 場：本 館

参加人数：20名

⑤図書館利用ガイダンス（蔵書検索・文献データベース検索他）

対 象：「教授科学学習実験」

日 時：平成19年4月27日（金）

会 場：本 館

参加人数：10名

⑥図書館利用ガイダンス

対 象：文学部行動科学講座受講生（第1回：蔵書検索他）

日 時：平成19年5月11日（金）

会 場：本 館

参加人数：16名

⑦図書館利用ガイダンス

対 象：文学部行動科学講座受講生（第2回：雑誌記事検索他）

日 時：平成19年5月18日（金）

会 場：本 館

参加人数：16名

⑧蔵書検索講習会

対 象：学生・院生・教職員

日 時：平成19年5月15日（火）、17日（木）、5月22日（月）

会 場：本 館

参加人数：26名

⑨図書館利用ガイダンス（蔵書検索・文献データベース検索他）

対 象：文学部人間科学専攻宗教学講座

日 時：平成19年5月28日（月）

会 場：本 館

参加人数：20名

⑩情報検索講習会（蔵書検索・文献データベース検索他）

対 象：学生・院生・教職員

日 時：平成19年6月28日（木）～29日（金）、7月2日（月）～4日（水）

会 場：本 館

参加人数：12名

⑪図書館利用ガイダンス（蔵書検索・文献データベース検索他）

対 象：経済学部国際交流支援室

日 時：平成19年7月12日（木）

会 場：本 館

参加人数：7名

⑫図書館利用講習会（蔵書検索・図書館利用方法他）

対 象：学外利用者

日 時：平成19年8月9日（木）、8月29日（水）

会 場：本 館

参加人数：4名

⑬図書館利用ガイダンス（雑誌記事検索他）

対 象：教育学部中島ゼミ

日 時：平成19年10月5日（金）

会 場：本 館

参加人数：7名

⑭図書館利用ガイダンス（蔵書検索他）

対 象：「グローバル経営史演習」

日 時：平成19年10月16日（火）

会 場：本 館

参加人数：20名

⑮情報検索講習会（蔵書検索・文献データベース検索他）

対 象：学生・院生・教職員

日 時：平成19年10月25日（木）～26日（金）

会 場：本 館

参加人数：8名

⑯図書館利用ガイダンス（蔵書検索・図書館利用方法他）

対 象：「日本語特別課程E4」

日 時：平成19年11月29日（木）

会 場：本館

参加人数：4名

⑰図書館利用ガイダンス（蔵書検索他）

対 象：経済学部所属の留学生

日 時：平成19年12月21日（金）

会 場：本館

参加人数：15名

（2）医学分館

①利用ガイダンスと検索実習

対 象：医学系研究科大学院生

日 時：平成19年4月11日（水）～13日（金）

会 場：医学分館 別棟2階 閲覧室

参加人数：34名

②文献検索法と検索実習

対 象：医学部保健学科看護学専攻学部生

日 時：平成19年4月27日（金）

日 時：平成19年5月11日（金）

会 場：医学分館 別棟2階 閲覧室

参加人数：79名

③文献検索法ガイダンス

対 象：看護部西病棟所属看護師

日 時：平成19年5月31日（木）

会 場：病院 重症病棟カンファレンスルーム
参加人数：19 名

④文献検索法と検索実習

対 象：宮城県看護協会看護管理者
日 時：平成 19 年 10 月 17 日（水）
会 場：宮城県看護研修センター
医学分館 別棟 2 階 閲覧室
参加人数：25 名

⑤図書館利用・文献検索法ガイダンス

対 象：看護部看護師
日 時：平成 20 年 1 月 29 日（火）
会 場：病院 臨床小講堂
参加人数：97 名

（3）北青葉山分館

①北青葉山分館利用オリエンテーション

対 象：理・薬学部新入生
日 時：平成 19 年 4 月 9 日（月）～12 日（木）
会 場：北青葉山分館
参加人数：10 名

②利用ガイダンス（蔵書検索・図書館利用方法他）

対 象：理学部宇宙地球物理学科 2 年生
日 時：平成 19 年 10 月 10 日（木）
会 場：北青葉山分館
参加人数：22 名

③情報検索講習会（資料の探し方・データベース）

対 象：学生・院生
日 時：平成 19 年 10 月 18 日（木）、25 日（木）、30 日（火）
会 場：北青葉山分館 2 F グループ閲覧室
参加人数：7 名

④文献検索法と検索実習（SciFinder）

対 象：理学部化学科 2 年生
日 時：平成 20 年 1 月 8 日（火）、10 日（木）、15 日（火）、17 日（木）
会 場：北青葉山分館 1 F パソコンコーナー

参加人数：72 名

(4) 工学分館

①工学分館利用オリエンテーション

対 象：新入学部生，院生

日 時：4月4日～6日

会 場：工学分館

参加人数：62 名

②情報検索講習会（上手な文献の探し方）

対 象：特に定めない

日 時：平成19年4月23日（月）～27日（金）

会 場：工学分館パソコンコーナー

参加人数：9 名

③情報検索オーダーメイド講習

対 象：工学研究科エネルギー環境社会マネジメント分野の院生

日 時：平成19年5月17日（木）

会 場：エネルギー環境社会マネジメント分野研究室

参加人数：19 名

④情報検索講習会（上手な文献の探し方）

対 象：特に定めない

日 時：平成19年5月28日（月）～31日（木）

会 場：工学分館パソコンコーナー

参加人数：12 名

⑤情報検索オーダーメイド講習

対 象：工学研究科情報ナノシステム分野の学部生，院生

日 時：平成19年6月12日（火）

会 場：情報ナノシステム分野研究室

参加人数：13 名

⑥情報検索講習会

対 象：秘書・教職員

日 時：平成19年6月5日（火），12日（火），19日（火）

会 場：工学分館視聴覚室

参加人数：8 名

⑦情報検索講習会（上手な文献の探し方）

対 象：特に定めない

日 時：平成19年6月25日（月）～29日（金）

会 場：工学分館パソコンコーナー

参加人数：18名

⑧情報検索講習会

対 象：秘書・教職員

日 時：平成19年7月3日（火），10日（火），17日（火）

会 場：工学分館視聴覚室

参加人数：7名

⑨情報検索講習会（上手な文献の探し方）

対 象：特に定めない

日 時：平成19年10月29日（月）～31日（水）

会 場：工学分館パソコンコーナー

参加人数：5名

⑩情報検索講習会

対 象：秘書・教職員

日 時：平成19年11月6日（火），13日（火），20日（火）

会 場：工学分館視聴覚室

参加人数：4名

⑪情報検索講習会（上手な文献の探し方）

対 象：特に定めない

日 時：平成19年11月26日（月）～27日（火）

会 場：工学分館パソコンコーナー

参加人数：5名

⑫情報検索講習会

対 象：秘書・教職員

日 時：平成20年1月8日（火），15日（火），22日（火）

会 場：工学分館視聴覚室

参加人数：15名

⑬情報検索講習会

対 象：秘書・教職員

日 時：平成20年3月4日（火），11日（火），18日（火）

会 場：工学分館視聴覚室

参加人数：1名

（5）農学分館

①オリエンテーション

対 象：新入生

日 時：平成19年4月6日（金）～12日（木）（計15回）
会 場：農学分館
参加人数：37名

②オーダーメイド講習会

対 象：生物化学系 学部3年生
日 時：平成19年4月9日（月）
会 場：農学部コンピュータ演習室
参加人数：30名

③オーダーメイド講習会

対 象：生体分子機能学分野 学部4年生、大学院生
日 時：平成19年4月10日（火）
会 場：農学分館パソコンコーナー
参加人数：10名

④オーダーメイド講習会

対 象：栄養学分野 学部4年生、大学院生
日 時：平成19年4月11日（水）
会 場：農学分館パソコンコーナー
参加人数：6名

⑤オーダーメイド講習会

対 象：機能分子解析分野 学部4年生、大学院生
日 時：平成19年4月16日（月）
会 場：農学分館パソコンコーナー
参加人数：8名

⑥オーダーメイド講習会

対 象：動物栄養生化学分野 学部4年生、大学院生
日 時：平成19年4月19日（木）
会 場：農学分館パソコンコーナー
参加人数：4名

⑦オーダーメイド講習会

対 象：陸圏生態学分野 学部4年生、大学院生
日 時：平成19年5月14日（月）

会 場：農学分館パソコンコーナー
参加人数：5名

⑧オーダーメイド講習会

対 象：複合生態フィールド制御学分野 学部4年生、大学院生
日 時：平成19年5月16日（水）
会 場：研究室
参加人数：5名

⑨オーダーメイド講習会

対 象：資源環境経済学分野 学部3年生
日 時：平成19年5月24日（木）
会 場：農学分館パソコンコーナー
参加人数：7名

⑩オーダーメイド講習会

対 象：植物生命科学系 学部3年生
日 時：平成19年10月5日（金）
会 場：農学部コンピュータ演習室
参加人数：28名

8. 見学者等

本 館

平成19年 6月 山形城北高等学校（教員3名，生徒80名）

7月 福島県立福島東高等学校（教員1名，生徒20名）

茶道裏千家淡交会宮城支部会（会員35名）

新潟県立村上中等学校（教員5名，生徒80名）

8月 静岡大学教育学部（教員2名，学生11名）

名取市教育委員会学校図書館部（学生74名）

100年祭り学内見学ツアー（100名）

9月 短期留学生受入プログラム（教職員4名，学生54名）

10月 中国河北省社会科学院訪日団（11名）

11月 山形県村山市立葉山中学校（教員6名，生徒102名）

仙台市立南小泉中学校（職場体験）（生徒6名）

9. 職員研修

- ・ 附属図書館新人研修

日 時：平成19年5月16日（水）

場 所：本館1号館会議室

参加人数：12名

- ・ Monthly Seminar #1

日 時：平成19年7月4日（水）

場 所：本館2号館4階会議室

テ ー マ：東北大学附属図書館の今と将来構想

参加人数：15名

- ・ Monthly Seminar #2

日 時：平成19年8月1日（水）

場 所：本館2号館4階会議室

テ ー マ：オープンアクセスの今

参加人数：13名

- ・ Monthly Seminar #3

日 時：平成19年9月27日（木）

場 所：本館2号館4階会議室

テ ー マ：情報リテラシー業務の今後

参加人数：16名

- ・ 職員総合研修会

日 時：平成19年12月14日（金）

場 所：本館2号館会議室

テ ー マ：他業界に学ぶ仕事のヒント

参加人数：42名

10. 刊行物

本 館

- ①東北大学附属図書館報「木這子」Vol. 32 (No.1～4)
- ②東北大学附属図書館概要 2009
- ③「利用案内」(日本語・英語・韓国語・中国語) 2008
- ④「らいぶらり Now」No.139～No.145
- ⑤東北大学生のための情報検索の基礎知識 基本編 2008
- ⑥Guide to Academic Information Search -for Students of Tohoku University-
2008

医学分館

- ①図書館利用案内 (2008)

北青葉山分館

- ①利用案内
- ②Library Guide

工学分館

- ①「図書館利用案内」(日本語版)
- ②「Guide to the Library」

農学分館

- ①めぐりぶ (分館だより)
- ②図書館利用案内 (英文併用版)

1 1. 諸報告

1. 平成19年度企画展

「絵はがきタイムトラベル ―狩野文庫絵葉書コレクションから―」

(第一期)

会 期：平成19年7月4日（水）～10月29日（日）

場 所：本館1号館エントランスホール

(第二期)

会 期：平成19年11月2日（金）～12月9日（日）

場 所：仙台市博物館2階展示ゾーン出口側

2. 特別展示会（オープンキャンパス特別展）

「絵はがきタイムトラベル ―狩野文庫絵葉書コレクションから―」

(その1)

会 期：平成19年7月17日（火）～7月31日（火）

場 所：北青葉山分館玄関ホール

(その2)

会 期：平成19年7月17日（火）～8月10日（金）

場 所：農学分館玄関ホール

(その3)

会 期：平成19年7月23日（月）～8月10日（金）

場 所：医学分館、工学分館（各玄関ホール）

3. 特別展示会（百周年記念まつり特別展示）

会 期：平成19年8月25日（土）～8月26日（日）

場 所：東北大学片平キャンパス（多元物質科学研究所）

4. 特別展（東北大学百周年記念展示）

「東北大学の至宝 ―資料が語る1世紀―」

(東京会場)

会 期：平成19年9月1日（土）～10月14日（日）

場 所：江戸東京博物館

来場者：33,500人

(仙台会場)

会 期：平成19年11月2日（金）～12月9日（日）

場 所：仙台市博物館

来場者：12,000人

5. 特別展（東北大学百周年記念展示）

「文豪・夏目漱石展 ―そのころとまなざし―」

会 期：平成19年9月26日（水）～11月18日（日）

場 所：江戸東京博物館

来場者：90,000人

「学都に息づく夏目漱石の精神 ―仙台の「漱石文庫」から―」

会 期：平成20年3月15日（土）～5月18日（日）

場 所：仙台文学館

来場者：5,700人

6. 常設展

「江戸のおもしろデザイン ～見立絵本を中心に～」(ミニ展示)

会 期：平成18年12月～平成19年5月

「江戸の野菜 ―図書館資料で見る昔の野菜―」(ミニ展示)

会 期：平成19年6月8日（木）～6月26日（月）

「江戸の遊び ―けっこう楽しいエコレジャー―」

(第1部) 季節の楽しみ

会 期：平成19年11月～平成20年1月

(第2部) 読む楽しみ

会 期：平成20年3月～5月

場 所：本館1号館エントランスホール

国立大学法人東北大学附属図書館中期目標・中期計画一覧（案）

（年度計画，実施内容，達成度評価資料入り）

平成20年5月 作成

（備考）

○で囲んだ数字番号は，平成16年度・計画～平成18年度・計画と，平成16年度実施内容～平成18年度実施内容に対応する。
たとえば，平成16年度・計画が①～④であれば，平成17年度・計画は⑤～⑧とし，平成18年度・計画は⑨，平成19年度・計画⑩～⑮，平成20年度・計画は⑯～として記入しており，各年度の実施内容はこの番号と対応している。

中 期 目 標	中 期 計 画								
(前文) 附属図書館の基本的な目標 「東北大学附属図書館ミッション声明(平成12年2月)」 東北大学附属図書館は、本学における学術情報流通の中核として情報基盤の重要な部分を担い、研究者・学生及び職員が必要とする情報資源の収集、創生、組織化並びに提供を通じて、本学における教育・研究活動を支援する。さらに、国内外並びに地域社会における学術研究の進展及び文化の振興に寄与する。									
I 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織 2 教育研究上の基本組織 ○附属図書館（以下、図書館）の構成 本館，医学分館，北青葉山分館，工学分館，農学分館									
II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1 教育に関する目標 (3) 教育の実施体制等に関する目標 ○図書館における教育支援の実施体制等 教育プログラムと密接に連携した図書館サービス（学習図書館機能）を提供する。その提供基盤としての電子図書館機能の強化・充実を図る。	II 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置 ○図書館における教育支援の実施体制に関する具体的目標の設定 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年度計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度・計画</td><td> ①学部学生・大学院学生のための基本図書の充実を図るため、シラバス掲載の教科書・参考書を網羅的に収集・整備するとともに、授業担当教員と連携して自習図書・教養図書・基礎専門図書・AV教材の整備を推進する。 ②情報リテラシー教育を支援するため、全学教育科目「図書館を活用した全学教育科目」を開講する。 ③平成15年度から開始した第5次図書目録情報週及入力6か年計画を継続し、5万冊の入力を行う。平成20年度までに、本館蔵書30万冊（毎年度5万冊）の入力を完了する。 ④閲覧サービスの強化と効率化を図るため、平成18年度を目標に3年次計画で図書自動貸出返却システム（医学分館，北青葉山分館，農学分館）及び入退館システム（本館）の整備に努める。 </td></tr> <tr> <td>16年度実施内容</td><td> ①シラバス掲載の教科書・参考書については、予算の範囲内で収集整備につとめた。しかしながら、予算の確保、選書体制等については不十分な点もあり、今後の学生用図書のあり方について、図書館商議会の下に設置した学生用図書整備検討委員会で検討し、その方策を決定した。 ②平成16年度に開講し、引き続き平成17年度も開講することとした。 ③平成16年度週及入力登録冊数は、50,083冊となり、当初の目標を達成した。 ④システム整備のための経費を3年次計画の1年目として要求したが認められなかったため、次年度以降も引き続き予算要求を行い、整備に努める。 </td></tr> <tr> <td>17年度・計画</td><td> ⑤日曜・祝日開館など開館時間の拡大に努める。 ⑥全学の図書資料を身近な図書館から利用できるようにするため、キャンパス間資料搬送サービスの整備を図る。 ⑦レファレンスサービスを強化・充実するため、ネットワーク及びレファレンス・データベースを活用した全館 </td></tr> </tbody> </table>	年度計画		16年度・計画	①学部学生・大学院学生のための基本図書の充実を図るため、シラバス掲載の教科書・参考書を網羅的に収集・整備するとともに、授業担当教員と連携して自習図書・教養図書・基礎専門図書・AV教材の整備を推進する。 ②情報リテラシー教育を支援するため、全学教育科目「図書館を活用した全学教育科目」を開講する。 ③平成15年度から開始した第5次図書目録情報週及入力6か年計画を継続し、5万冊の入力を行う。平成20年度までに、本館蔵書30万冊（毎年度5万冊）の入力を完了する。 ④閲覧サービスの強化と効率化を図るため、平成18年度を目標に3年次計画で図書自動貸出返却システム（医学分館，北青葉山分館，農学分館）及び入退館システム（本館）の整備に努める。	16年度実施内容	①シラバス掲載の教科書・参考書については、予算の範囲内で収集整備につとめた。しかしながら、予算の確保、選書体制等については不十分な点もあり、今後の学生用図書のあり方について、図書館商議会の下に設置した学生用図書整備検討委員会で検討し、その方策を決定した。 ②平成16年度に開講し、引き続き平成17年度も開講することとした。 ③平成16年度週及入力登録冊数は、50,083冊となり、当初の目標を達成した。 ④システム整備のための経費を3年次計画の1年目として要求したが認められなかったため、次年度以降も引き続き予算要求を行い、整備に努める。	17年度・計画	⑤日曜・祝日開館など開館時間の拡大に努める。 ⑥全学の図書資料を身近な図書館から利用できるようにするため、キャンパス間資料搬送サービスの整備を図る。 ⑦レファレンスサービスを強化・充実するため、ネットワーク及びレファレンス・データベースを活用した全館
年度計画									
16年度・計画	①学部学生・大学院学生のための基本図書の充実を図るため、シラバス掲載の教科書・参考書を網羅的に収集・整備するとともに、授業担当教員と連携して自習図書・教養図書・基礎専門図書・AV教材の整備を推進する。 ②情報リテラシー教育を支援するため、全学教育科目「図書館を活用した全学教育科目」を開講する。 ③平成15年度から開始した第5次図書目録情報週及入力6か年計画を継続し、5万冊の入力を行う。平成20年度までに、本館蔵書30万冊（毎年度5万冊）の入力を完了する。 ④閲覧サービスの強化と効率化を図るため、平成18年度を目標に3年次計画で図書自動貸出返却システム（医学分館，北青葉山分館，農学分館）及び入退館システム（本館）の整備に努める。								
16年度実施内容	①シラバス掲載の教科書・参考書については、予算の範囲内で収集整備につとめた。しかしながら、予算の確保、選書体制等については不十分な点もあり、今後の学生用図書のあり方について、図書館商議会の下に設置した学生用図書整備検討委員会で検討し、その方策を決定した。 ②平成16年度に開講し、引き続き平成17年度も開講することとした。 ③平成16年度週及入力登録冊数は、50,083冊となり、当初の目標を達成した。 ④システム整備のための経費を3年次計画の1年目として要求したが認められなかったため、次年度以降も引き続き予算要求を行い、整備に努める。								
17年度・計画	⑤日曜・祝日開館など開館時間の拡大に努める。 ⑥全学の図書資料を身近な図書館から利用できるようにするため、キャンパス間資料搬送サービスの整備を図る。 ⑦レファレンスサービスを強化・充実するため、ネットワーク及びレファレンス・データベースを活用した全館								

		的なレファレンスサービスを実施する。 ⑧電子図書館サービス及び業務処理の強化・充実を図るため、図書館業務サービスシステム及び統合型学術情報提供システムを更新する。
	17年度実施内容	②情報リテラシー教育を支援するため、全学教育科目「大学生のための情報検索術」を引き続き開講した。 ③平成17年度遡及入力登録冊数は、56,950冊となり、第5次図書目録情報遡及入力6か年計画3年次を継続実施し当初の目標を達成した。 ④システム整備のための経費を要求したところ、退館システムの経費が認められ、整備することができた。 ⑤2号館の開館時間の拡大について検討を行った。 ⑥キャンパス間資料搬送サービスの整備について検討し、具体的な実施計画を作成した。 ⑦レファレンスサービスを強化・充実するため、ネットワーク及びレファレンス・データベースを活用したオンライン・レファレンスシステムを図書館情報処理システムに構築し、全館的なレファレンスサービスの運用準備を行った。 ⑧統合型学術情報提供システムの機能の一部を含め、図書館情報処理システムを更新し、電子図書館サービス及び業務処理の強化・充実を図った。
	18年度・計画	①「シラバス連携 教科書・参考図書検索」の拡充と、「東北大学生のための情報探索の基礎知識」の改訂及び新版を作成する。 ②情報リテラシー教育を支援するため、全学教育科目「大学生のための情報検索術」を引き続き開講すると共に、授業の一環としての図書館利用指導講習会の開催の拡大に努める。 ③第5次図書目録情報遡及入力6か年計画4年次を実施するとともに、遡及事業の完了を前提にした第6次計画の立案に取り組む。【追加】 ④閲覧サービスの強化と効率化を図るため、平成20年度を目標に3年次計画で図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）及び入館システム（本館）の整備に努める。 ⑥キャンパス間資料搬送サービスの整備について、試行運用を行う。 ⑦レファレンスサービスを強化・充実するため、オンライン・レファレンスシステムの運用高度化を図る。 ⑨図書館利用の利便性の向上を図るため、携帯電話対応の図書館ホームページを充実する。
	18年度実施内容	①「東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編」を改訂及び学部新入生全員に配布した。また「同. 人文社会科学編」、「同. 英語版（ダイジェスト版）」を作成した。 ①「シラバス連携 教科書・参考図書検索」の拡充として、工学部シラバスと蔵書検索システムを連携した。 ②教員からの依頼により、授業の一部として、情報検索講習会を14回開催した。 ③第5次図書目録情報遡及入力6か年計画4年次を実施中であり、期日まで目標の約6万冊を達成した。また、遡及事業をさらに前進させるための第6次計画の素案を作成した。 ④図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）の導入経費を総長裁量経費要求事項として提出したが、認められなかった。本館の入退館システムを更新した。 ⑥キャンパス間資料搬送サービスの整備について、試行運用を行った。 ⑦オンライン・レファレンスシステムをリリースした。 ⑨図書館情報処理システムにより「携帯版蔵書検索」などの携帯電話対応サービスを開始した。 ⑩工学分館では工学系電子ブック（Net Library）を導入した。
	19年度・計画	①「東北大学生のための情報探索の基礎知識 英語版」を作成し、学内の留学生に配布する。 ②授業の一部として情報検索講習会をより拡充する。 ③第5次図書目録情報遡及入力6か年計画5年次を実施し、遡及事業をさらに前進させるための第6次計画の具体案を作成する。 ④図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）の導入経費を総長裁量経費要求事項として提出する。

		⑤試験期間について日曜・祝日の開館時間の延長を実施する。 ⑥キャンパス間資料搬送サービスを本格的に実施する。 ⑦オンラインレファレンスサービスの利用拡大を図る。 ⑩図書館での蔵書・情報（論文）検索講習会を毎月定常的に開催することで、利用者が講習会に参加しやすい体制作りを行う。（分館を含む） ⑪ホームページを改訂し、コンテンツの整理と拡充を行うとともに、情報探索の利便性を向上させる。 ⑫北青葉山分館において学部1年生からの時間外利用サービスを本格的に実施する。 ⑬古くなった分館の入退館システムの更新に努める。 ⑭デジタル情報化、ネットワーク化の進展に対応し、情報媒体を問わずに円滑に利用可能なハイブリッドライブラリを構築する。 ⑮「東北大学機関リポジトリ TOUR」への授業資料の登録を推進する。
	19年度実施内容	①「東北大学生のための情報探索の基礎知識 基本編」及び「東北大学の情報探索の基礎知識 英語版」を作成し、学内に配布した。 ②授業の一部として情報検索講習会の開催を教員に働きかけた。 ③第5次図書目録情報遡及入力6か年計画5年次を実施し、終了した。平成20年度から開始する第6次計画を策定した。また、国立情報学研究所の平成20年度総合目録データベース遡及入力事業に応募し、実施が認められた。 ④図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）の導入経費を総長裁量経費として要求したが認められなかった。 ⑤試験期間について日曜・祝日の開館時間の延長を実施した。 ⑥キャンパス間資料搬送サービスの正式運用を開始した。 ⑦図書館 Web サイトのトップページにオンラインレファレンスサービスのバナーを設置し、利用拡大に努めた。 ⑩学外利用者向けの図書館利用講習会を実施した。 ⑬医学分館の入退館システムの更新を行った。 ⑭ハイブリッドライブラリ構築の検討のため、国立情報学研究所の ERMS 実証実験に参加した。 ⑮「東北大学機関リポジトリ TOUR」への学位論文等の登録推進のため、全14研究科の事務担当者と打ち合わせを開始した。
	20年度・計画	①「東北大学生のための情報探索の基礎知識」の基本編の内容を更新し、英語版と共に学内の新入生等に配布する。「人文社会科学編」及び「自然科学編」の内容更新のための検討を進める。 ②授業の一部として教員に情報検索講習会を認知してもらえよう新たな周知方法を試行する。 ③第6次図書目録情報遡及入力を開始し、全学的基盤経費及び国立情報学研究所の遡及事業経費で75,000冊以上の遡及入力を行う。 ④図書自動貸出返却システムの医学分館、北青葉山分館及び農学分館への新規導入に加え、本館への増設も含めた予算要求を行う。 ⑤本館の土・日の開館時間の延長を実施する。 ⑥キャンパス間資料搬送サービスを継続する。 ⑦引き続き、オンラインレファレンスサービスの利用拡大を図るとともに、これまで蓄積された質問の有効活用と公開のための基準作成を行う。 ⑩利用者が計画的に参加できるように図書館での蔵書・情報（論文）検索講習会の年間開催計画を早期に公表する。 ⑪ホームページを改訂し、コンテンツの整理と拡充を行うとともに、情報探索の利便性を向上させる。 ⑬2号館の時間外開館のため入退館システムの導入経費を総長裁量経費で導入する。 ⑭ハイブリッドライブラリの構築を進めるため、横断検索システム、リンクリゾルバの導入等を総長裁量経費で

(4) 学生の支援に関する目標 ○図書館による学生の支援 学生の自学自習のための快適な学習環境を提供する。		要求する。また、引き続き、国立情報学研究所の ERMS 実証実験に参加する。 ⑮「東北大学機関リポジトリTOUR」と他のシステムとの連携を進めるとともにコンテンツの拡張のための関係部署への働きかけを進める。
	達成度評価資料	・年次報告書
	(4) 学生の支援に関する目標を達成するための処置	
	○図書館による学生支援に関する具体的目標の設定	
	年度計画	
	16年度・計画	①学習環境を整備するため、平成18年度を目標に順次、本館閲覧室の老朽化した閲覧机や椅子の更新を行う。平成16年度は、本館自由閲覧室（全200席）の閲覧机・椅子の更新を行う。
	16年度実施内容	①更新のための経費を要求したが認められなかったため、引き続き、17年度分と併せて更新に努める。
	17年度・計画	①本館学生閲覧室（全300席）の閲覧机や椅子の更新を行う。
	17年度実施内容	①本館自由閲覧室（188席）本館学生閲覧室（154席）の閲覧机や椅子の更新を行った。
2 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標	18年度・計画	①本館学生閲覧室及び研究閲覧室（全236席）の閲覧机や椅子の更新を行う。 ②古くなったパソコンコーナーの情報検索機器の更新に努める。
	18年度実施内容	①本館学生閲覧室及び研究閲覧室（全236席）の閲覧机や椅子の更新を行った。1号館のトイレの改修、ブラウジング・コーナーの椅子の更新、自由閲覧室の新聞台の更新等を行った。 ②古くなったパソコンコーナーの情報検索機器57台の更新を行った。
	19年度・計画	②18年度に引き続き、情報検索端末の拡充に努める（分館を含む）。 ③無線LANによる館内ネットワーク環境整備の検討を開始する（分館を含む）。 ④古くなったAVブースの機器更新に努める。
	19年度実施内容	②医学分館で2台、農学分館で1台利用者用パソコンを更新した。 ③図書館における無線LANの整備方法について学内関係部署も交えて検討を行った。 ④古くなったAVブースを6台更新し、既設分の更新を完了した。
	20年度・計画	②引き続き、情報検索端末の拡充を図る（分館を含む）。 ③無線LANによる本館内のネットワーク環境を整備する。 ④引き続きAVブースの機器を整備する。 ⑤図書館サービスに対する利用者の意見・要望を反映するため、投書箱や図書館ホームページによる収集や回答方法の改善を行う。 ⑥学生用図書の実用を図るため学生用図書の選書体制・方法の検討を行う。
	達成度評価資料	・年次報告書
	2 研究に関する目標を達成するための措置	
	(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	

○図書館による研究成果等の情報発信等 本学の研究成果（紀要・学位論文等）を学内外に発信する拠点的役割を果たす。	○図書館による研究成果等の情報発信等に関する具体的目標の設定 年度計画	
	16年度・計画	①本学における学術情報の受信・発信を統合的に行うため、学術情報ポータルを構築し提供する（研究者が学術情報 Web サイト等をカスタマイズすることができる研究者ポータル機能を含む）。 ②学内研究者と連携し、貴重資料・郷土資料の収集・整理・保存を推進する。平成16年度からは、「斎藤養之助家史料」の整理・保存を継続的に実施する。 ③図書館所蔵貴重資料等を電子化しインターネットで発信するとともに、貴重資料の保存を推進する。
	16年度実施内容	①予算要求を行ったが、予算化できず現状のままである。 ②「斎藤養之助家史料」の整理事業を、東北大学研究教育振興財団の助成金によりすすめた。 ③和算資料の電子化を行い、インターネットで発信するとともに、図書館所蔵古典資料の修復保存を検討するため、貴重図書等選定委員会の下に、古典資料等修復保存小委員会を設置し、検討を行った結果、貴重資料の修復・保存対象リストの完成を見た。
	17年度・計画	④本学が生産した研究成果（部局紀要、学位論文、各種報告書等）の電子的保存・管理・提供システムとしての「機関リポジトリ」の構築を推進する。
	17年度実施内容	②「斎藤養之助家史料」の整理事業を、東北大学研究教育振興財団の助成金により、継続して行った。 ③平成16年度に完成した貴重資料の修復・保存対象リストをもとに修復経費を要求したが認められなかった。 ④国立情報学研究所が推進する「最先端学術情報基盤の構築のためのレア・コンテンツ整備事業」の事業委託を受け、機関リポジトリのコンテンツ作成を実施した。主な実施内容は、博士学位論文の要旨集、貴重古典資料、狩野文庫絵はがきコレクションの電子化等。
	18年度・計画	②学内研究者と連携し、「斎藤養之助家史料」の整理・保存を継続的に実施する。 ③平成16年度に完成した貴重資料の修復・保存対象リストに掲載された資料の修復を行う。
	18年度実施内容	②学内研究者と連携し、科学研究費補助金により「斎藤養之助家史料」の整理作業を行った。 ③平成16年度に完成した貴重資料の修復・保存対象リストに掲載された資料のうち、一部資料の修復を実施した。また一般公開を推進するため国宝のレプリカ作成を行った。 ④「東北大学機関リポジトリ TOUR」の運用を開始した。
	19年度・計画	②学内研究者の科学研究費補助金により、平成21年度を目途に4年計画で、「斎藤養之助家史料」の目録作成、データベース化を行い、学内外利用者への公開を目指す。 ③平成16年度に完成した貴重資料の修復・保存対象リストに掲載された資料の修復を継続して行う。概算要求事項として提出する。貴重資料・特殊文庫等の書誌・画像データベース化構想を計画し、推進する。 ④「東北大学機関リポジトリ TOUR」の整備・充実を推進し、大学情報データベースとの連携を図る。
	19年度実施内容	②「斎藤養之助家史料」の9割程度を整理し、データ入力を行った。 ③東北大学研究教育振興財団の助成により、貴重図書3点の修復を行った。貴重図書（目録）データベース化プロジェクトチームを組織し、検討を開始した。 ④「東北大学機関リポジトリ TOUR」と大学情報データベースの連携を図るための検討を行った。
	20年度・計画	②引き続き、「斎藤養之助家史料」の整理とデータ入力、目録作成を行う。 ③平成16年度に完成した貴重資料の修復・保存対象リストに掲載された資料の修復を継続して行う。概算要求事項として提出する。狩野文庫全資料の画像データベース化構想実現のために、基礎資料をまとめ予算要求資料を作成する。 ④「東北大学機関リポジトリ TOUR」と大学情報データベースの連携に向けて仕様を検討し、システム改修を行う。 ⑤電子ジャーナルのリモートアクセスを実現できるよう学内関係部署と検討を行う。

(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 ○図書館における研究支援体制等の整備 本学の研究活動を支援するため、専門性・共用性の高い学術情報を整備し、多様なメディアで迅速に提供する。	達成度評価資料	・年次報告書
	(2) 研究実施体制等の整備に関する目標を達成するための措置 ○図書館における研究支援体制等の整備に関する具体的目標の設定	
	年度計画	
	16年度・計画	①研究に必要な外国雑誌・電子ジャーナル・二次情報データベースの全学共同購入整備計画の改善を図る。 ②全国的に希少な医学生物学系外国雑誌等を網羅的に収集するため、全国に対して本学が担っている「外国雑誌センター館」としての機能を強化・充実するよう努める。 ③資料購入提供の迅速化を図るため、教員向けオンライン図書選書・購入申込サービスの整備を推進する。 ④文献画像伝送システムを利用したドキュメントデリバリーサービスの提供に努める。
	16年度実施内容	①図書館商議会の下に設置した学術情報整備検討委員会において、平成17年度に向け、共同購入の枠組みを規定し、非共同購入との区分を明確にした。また、現在部局負担となっている共同購入について共通経費要求を引き続き行っていくこととし、大学全体の観点から現在未整備のものも含めて包括的に整備していく方針を決定した。 ②予算の継続確保を実現し、「外国雑誌センター館」としての資料の充実に努めた。 ③法人化後の財務会計制度によりこれまで以上に資料購入提供の迅速化が図られた。全学教育に係る学生用図書の選書についてはオンライン化を図った。 ④学外機関との文献画像伝送について、著作権管理団体との合意が成立したことにより、文献画像伝送システムによる複写物提供件数が増加し、前年度の2倍になった。また、電子複写機と連動した複合機による、新たな画像伝送装置システムの導入について検討を開始した。
	17年度・計画	⑤研究の学際化にともなう各館所蔵資料の共同利用を促進するため、キャンパス間資料搬送サービスの整備を推進する。 ⑥人文社会科学の研究で必要とする学術図書コレクション（貴重資料を含む）の充実・強化に努める。
	17年度実施内容	①引き続き学術情報整備のための対応を検討委員会中心に行い、購入内容の調整をして ACM や Materials Transactions などを H18年度より新規に導入することにした。また、共通経費化 WG を設置し、共通経費化によるより安定的な学術情報整備のための財源確保について検討を行った。 ④学外機関との文献画像伝送について、電子複写機と連動した複合機による、新たな画像伝送装置システムの導入について検討を開始した。さらに、学内での図書館・室間の文献情報流通のために図書館情報処理システムに文献画像伝達システム(e-DDS)を構築した。 ⑤キャンパス間資料搬送サービスの整備について検討し、具体的な実施計画を作成した。 ⑥特別図書購入費により人文・社会科学系大学院の教育研究に必要な図書資料を整備した。 ⑦平成17年度中に、「情報探索マニュアル」の英語版をハワイ大学の職員と共同で製作することが決定した。 ⑧図書館情報教育支援 WG が作業グループとなって平成18年度中の刊行を図る。
	18年度・計画	①研究に必要な外国雑誌・電子ジャーナル・二次情報データベースの全学共同購入整備計画の見直しを行い、改善を図る。また、予算的枠組みについての問題解決に努める。 ④複合機と文献画像伝達システム(e-DDS)を活用した新しい文献伝達システムを運用する。 ⑤キャンパス間資料搬送サービスの整備について、試行運用を行う。 ⑦機関リポジトリの公開、学位論文の電子化を行う。
	18年度実施内容	①学術雑誌の高騰に対応するため冊子体を削減し、電子ジャーナルオンリー化を進める等の利用環境の整備を行った。 ②「外国雑誌センター館」として医学生物学系の外国雑誌の充実に努めた。

3 その他の目標 (1) 社会との連携，国際交流等に関する目標 ○図書館の社会連携・社会貢献 国内外の大学図書館など関係機関と連携・相互協力を図るとともに，地域社会へ図書館サービスを提供することにより，生涯教育に貢献する。		③書店システムと図書館情報処理システムを連携した選書機能の試行運用を実施した。 ④複合機と文献画像伝達システム(e-DDS)を活用した新しい文献伝達システムを正式運用した。 ⑤キャンパス間資料搬送サービスの整備について，試行運用を行った。 ⑦「東北大学機関リポジトリ TOUR」を公開した。 ⑧ハワイ大学からのアドバイスを受け，「東北大学生のための情報探索の基礎知識.英語版(ダイジェスト版)」を作成した。 ⑨電子ジャーナル集を改訂し，利便性を向上させた。
	19年度・計画	①雑誌・電子ジャーナル・二次情報データベース等の整備に関し，選定方針・方法について検討する。また，予算的枠組みについての問題解決に努める。 ②医学生物学系の「外国雑誌センター館」として資料の充実に努めるとともに，複合機を活用した迅速な文献複写物送付(DDS)サービスを実施する。 ③書店システムと図書館情報処理システムを連携した選書機能を正式運用する。 ⑤キャンパス間資料搬送サービスを本格的に実施する。
	19年度実施内容	①雑誌・電子ジャーナルの選定方針について検討した。また，基盤的経費での雑誌・電子ジャーナルの整備の枠組みが平成20年度から認められることとなった。 ②医学生物学系の「外国雑誌センター館」として生物医学系の外国学術雑誌を収集し，学内外にDDSサービス等を活用して提供した。 ③書店システムと図書館情報システムを連携した選書機能の運用を開始した。 ⑤キャンパス間資料搬送サービスの正式運用を開始した。
	20年度・計画	①引き続き，雑誌・電子ジャーナル・二次情報データベース等の選定方針・方法について検討する。 ②医学生物学系の「外国雑誌センター館」として資料の充実に努めるとともに，資料提供サービスを実施する。 ⑤キャンパス間資料搬送サービスを継続する。 ⑥重複資料等の除却により書架スペースの活用を図る。 ⑦本館書庫の一部を電動式集密書架に更新し，学内に分散している人文社会科学系図書を収容し，資料の有効利用を図る。
	達成度評価資料	・年次報告書

3 その他の目標を達成するための措置	
(1) 社会との連携，国際交流等に関する目標を達成するための措置	
○図書館の社会連携・社会貢献に関する具体的目標の設定	
年度計画	
16年度・計画	①一般市民を含む学外者に対して図書資料の貸出サービスを実施する。 ②国内外の大学図書館間における相互利用(ILLサービス)を推進する。 ③県内の公共図書館等と連携した，相互利用サービス，レファレンスサービス，企画展等の開催を推進する。
16年度実施内容	①平成16年4月から，一般市民を含む学外者への貸出サービスを開始し，1,289名，2,338冊の貸出を記録した。 ②平成16年11月から，新たに韓国との相互利用サービスを開始した。 ③宮城県図書館と相互研修会を実施するとともに，企画展を仙台市教育委員会と共催で行う計画の検討を開始した。
17年度・計画	④大学情報の提供に努めるため，講演会や報告会など，教員・図書館員と市民とが直接交流できる場を設ける。
17年度実施	①仙台市教育委員会と共催して市街地で企画展を開催した。併せて記念講演会・シンポジウムを開催し，教員や市民との直接交流を行った。

○図書館の国際交流支援 海外資料及び情報の提供をとおして、本学の国際交流を支援する。	内容	②教育史学会との共催や、日本数学史学会との共催により、社会連携の企画展を開催した。 ③企画展を共催で行う計画を、江戸東京博物館、仙台市博物館、仙台文学館、宮城県図書館と検討を開始した。
	18年度・計画	③県内の公共図書館等と連携した企画展等の開催を行うと共に、平成19年度の百周年記念事業として、江戸東京博物館、仙台市博物館、仙台文学館、宮城県図書館と共催の企画展の開催準備を行う。【追加】
	18年度実施内容	③宮城県図書館と共催して市街地で企画展を開催した。また平成19年度の百周年記念事業として、江戸東京博物館、仙台市博物館と共催の企画展の検討を行った。
	19年度・計画	③平成19年度の百周年記念事業として、江戸東京博物館、仙台市博物館と共催の企画展を開催する。 ⑤学外機関のためのWebによる文献複写依頼システムの検討を行う。 ⑥関孝和没後300年展示の準備を行う。
	19年度実施内容	③東北大学百周年記念事業として江戸東京博物館、仙台市博物館、仙台文学館で「東北大学の至宝」展及び「夏目漱石」展を開催した。 ⑤学外機関のためのWebによる文献複写依頼システムについての検討を行った。 ⑥関孝和没後300年展示の開催について宮城県図書館と検討を開始した。
	20年度・計画	⑤学外機関のためのWebによる文献複写依頼システムの平成21年度実施に向け、実証テストを行う。 ⑥関孝和没後300年を記念した展示会を宮城県図書館と共催する。 ⑦宮城県図書館、仙台市図書館等との連携を図る。
	達成度評価資料	・年次報告書
	○図書館の国際交流支援に関する具体的目標の設定	
	年度計画	
	16年度・計画	①留学生センター等と連携協力して、留学生用資料及び海外ニュース番組の充実、本学学生に対する海外教育情報の提供に努める。
	16年度実施内容	留学生センター等からの経費をもとに、視聴覚資料ビデオソフト69巻図書47冊を新たに購入し、留学生のためのコレクションの整備をはかるとともに、留学生が利用しやすいように、東北大学附属図書館ホームページの一部を英文化した。また、海外ニュース番組であるCNNニュースを引き続き契約し、留学生が視聴できるようにした。
	17年度実施内容	①留学生センター等からの経費をもとに、視聴覚資料ビデオソフト40巻図書128冊を新たに購入し、留学生のためのコレクションの整備をはかるとともに、留学生が利用しやすいように、外国語版利用案内（英語版：1,000部、中国語版：700部、韓国語版：700部）を作成し、東北大学附属図書館ホームページの一部を英文化した。また、海外ニュース番組であるCNNニュースを引き続き契約し、留学生が視聴できるようにした。
	18年度・計画	①留学生センター等と連携協力して、留学生用資料及び海外ニュース番組の充実、本学学生に対する海外教育情報の提供に努める。
	18年度実施内容	①国際交流センター等からの経費をもとに、視聴覚資料ビデオソフト53巻図書63冊を新たに購入し、留学生のためのコレクションの整備をはかった。また、「東北大学生のための情報探索の基礎知識・英語版（ダイジェスト版）」を作成した。
	19年度・計画	①国際交流センター等と連携協力して、留学生用資料及び海外ニュース番組の充実、本学学生に対する海外教育情報の提供に努める。また、引き続き、留学生用資料充実のために図書および視聴覚資料の収集に努める。「東北大学生のための情報探索の基礎知識・英語版」の詳細版を作成し、学内の留学生に配布する。 ②ホームページの中国語版もしくは韓国語版を作成する ③清華大学図書館との国際交流を図る。

	19年度実施内容	①国際交流部からの経費をもとに、視聴覚ビデオソフト 29 点、図書 138 点を新たに購入し、留学生のためのコレクションの整備を図った。また、「東北大学生のための情報探索の基礎知識・英語版」の詳細版を作成し、学内の留学生に配布した。更に、本館利用案内の英語版・中国語版・韓国語版を改訂し配布した。 ②利用に関する部分を中心にホームページの英語、中国語、韓国語のページを整備した。 ③副館長等が清華大学図書館を訪問し、今後の交流について意見交換を行った。
	20年度・計画	国際交流センター等と連携協力して、留学生用資料及び海外ニュース番組の充実、本学学生に対する海外教育情報の提供に努める。また、引き続き、留学生用資料充実のために図書および視聴覚資料の収集に努める。「東北大学生のための情報探索の基礎知識・英語版」の内容を更新し、学内の留学生に配布する。 ②ホームページの中国語版及び韓国語版の作成を進める。 ③清華大学図書館長を招聘し、講演会等を実施する。
	達成度評価資料	・年次報告書
Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 運営体制の改善に関する目標 ○図書館の運営体制の改善 図書館は、教育研究活動への支援を効果的に実施するため、図書館の組織・機能・業務の一元化を図る。	Ⅲ 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置 1 運営体制の改善に関する目標を達成するための措置 ○図書館の運営体制の改善 図書館の本館と分館の組織・業務の一元化に関する具体的目標の設定	
	年度計画	
	16年度・計画	①片平地区における片平分館（仮称）設置構想を推進する（地区研究所の研究図書館機能、ローライブラリー機能、市民との交流機能を統合的に提供する）。 ②図書館運営のため図書館運営会議（館長、副館長、分館長、事務部代表等）を設ける。
	16年度実施内容	①概算要求事項として提出した。 ②平成16年4月から図書館運営会議を設置し、原則として月1回開催し図書館運営の方針を決定した。
	17年度・計画	③本館と分館の事務組織の一元化を推進する（資料の整理・管理業務を本館に集中化し、分館は学術情報サービスに重点化する）。
	17年度実施内容	③本館と分館の事務組織の一元化を推進していたが、本学の事務部門の再構築計画が優先されているため、その結果を待つこととした。
	18年度実施内容	③本学事務部門の再構築の一環として、図書館事務組織について検討した。
	19年度・計画	③青葉山新キャンパスに構築予定の理系図書館の新たな事務組織を含め、全学図書事務機構の一元化について検討を継続する。 ④調査研究室の再構築について検討する。
	19年度実施内容	③青葉山新キャンパスに構築予定の理系図書館の新たな事務組織を含め、全学図書事務機構の一元化について検討を行った。 ④調査研究室を設置し、活動を開始した。
	20年度・計画	③青葉山新キャンパスに構築予定の理系図書館の新たな事務組織を含め、全学図書事務機構の一元化について検討を継続する。 ④調査研究室の活動を継続する。 ⑤平成23年の図書館創立百周年を目指して事業のロードマップを策定する。 ⑥附属図書館の3館構想を策定する。
	達成度評価資料	・年次報告書

3 人事の適正化に関する目標

○図書館における人材の養成

電子図書館的サービス及び情報リテラシー教育等に対応できる専門知識と企画・立案・調査能力を持った人材の養成を図る。

3 人事の適正化に関する目標を達成するための措置

○図書館における人材の養成に関する具体的目標の設定

年度計画	
16年度・計画	①長期的視野に立った人材の養成計画を作成する。 ②図書館職員としての専門的な知識を有する職員採用試験を実施する。
16年度実施内容	①新人研修の実施、国立大学図書館協会と連携し養成計画を進めた。 ②専門的知識を考査するために、第二次専門試験を実施した。
17年度・計画	③主題別の高度な知識・技能を有する専門職員を育成するため、体制の整備に努める。
17年度実施内容	①フレッシュ・パーソンセミナーを平成17年12月8日本館において実施し、東北地区国・公・私立大学から42名が受講した。 ③国立情報学研究所と共催で、平成17年度目録システム地域講習会（図書コース）を、平成17年6月15日（水）～6月17日（金）の3日間本館を会場に実施し、東北地区の国・公・私立の11大学等から14名が受講した。また、東北地区の他大学図書館への参加を呼びかけて機関レポジトリをテーマとした研修会を実施した。
18年度・計画	④国立大学図書館協会等と連携し、図書館職員の研修体制の整備に努める。
18年度実施内容	①職員1名を国立情報学研究所に長期研修派遣し、研修の在り方等について検討した。 ④国立情報学研究所等と協力し国際シンポジウム「求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント」を開催した。
19年度・計画	①望ましい研修の在り方について、東北地区図書館協議会等で検討し、実施計画を立てる。 ⑤キャリア形成支援プログラムの検討を行う。
19年度実施内容	①東北地区図書館協議会にWGを設置し、望ましい研修の在り方の検討を開始した。 ⑤キャリア形成支援プログラムの検討を行った。
20年度・計画	①望ましい研修の在り方について東北地区大学図書館協議会で検討し、計画を立案し実施する。 ⑤キャリア形成支援プログラムの検討を行う。
達成度評価資料	・年次報告書

4 事務の効率化・合理化に関する目標

○図書館の事務の効率化・合理化

業務の集中化及び機械化により、事務処理の効率化・合理化を推進する。

なお、このことによる人的資源は電子図書館サービス、情報リテラシー教育支援、レファレンスサービスなどの利用者サービス向上のために資する。

4 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置

○図書館の事務の効率化・合理化に関する具体的目標の設定

年度計画	
16年度・計画	①閲覧業務の省力化を図るため、図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）を導入することに努める。
16年度実施内容	①システム導入経費の要求を行ったが、認められなかったため、引き続き、予算要求を行い導入に努める。
17年度・計画	②資料の整理・管理業務の効率化を図るため、本館に当該業務を集中化することに努める。
17年度実施内容	①システム導入経費の要求を行ったが、認められなかった。 ②本館と分館の事務組織の一元化を推進することを前提に、本館に資料の整理・管理業務を集中化することとしていたが、本学の事務部門の再構築計画が優先されているため、その結果を待つこととした。
18年度・計画	①引き続き、予算要求を行いシステムの導入に努める。 ③図書目録業務等の効率化・合理化を図るため、当該業務のアウトソーシングの可能性を検討する。

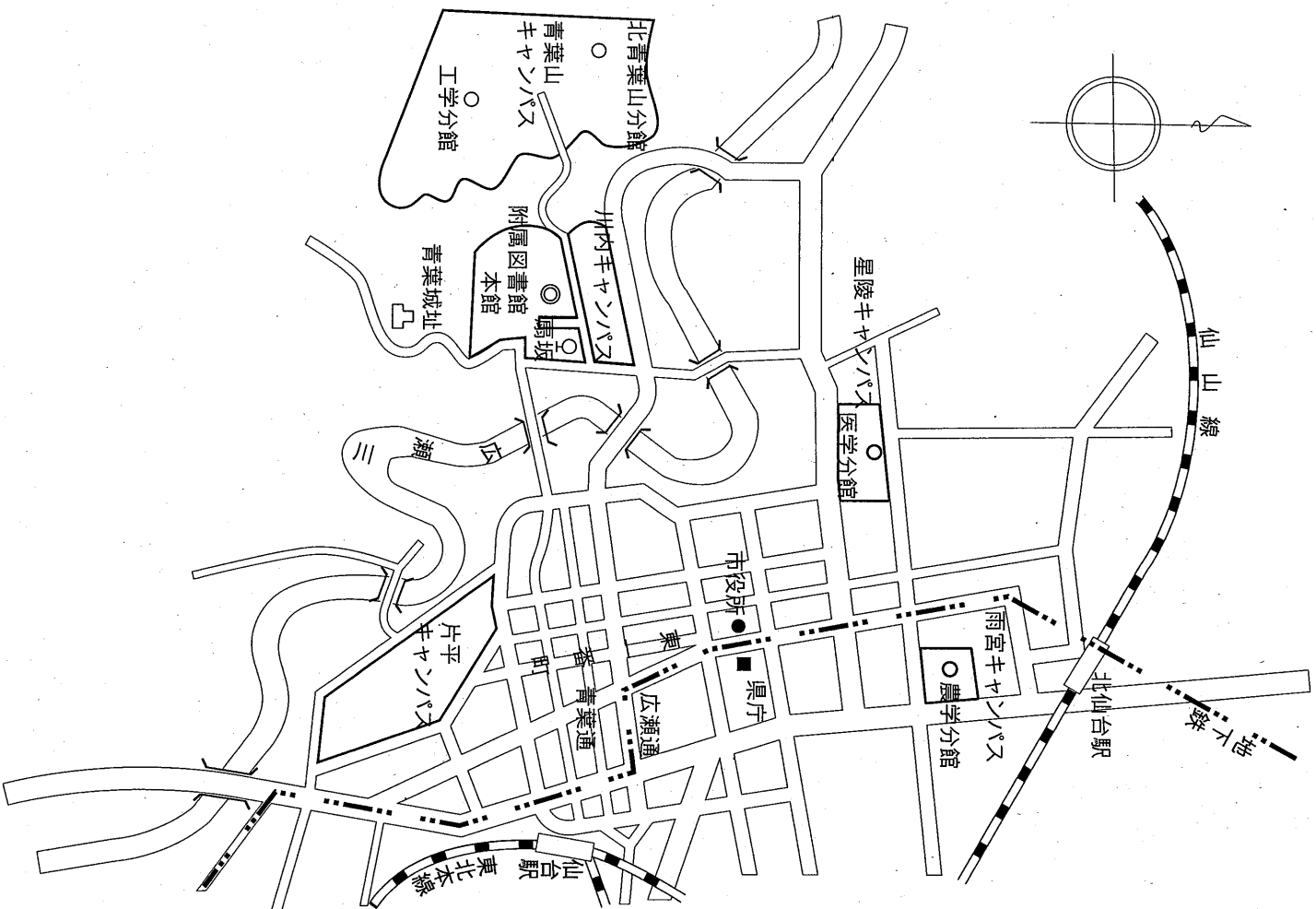
	18年度実施内容	①図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）の導入経費の要求を行ったが、認められなかった。 ③図書目録業務等の効率化・合理化を図るため、当該業務のアウトソーシングの可能性の検討の結果、当面は遡及入力業務に限定する事とした。 ④文書決裁方法の見直しを図り、事務の効率化を行った。 ⑤定時退勤日の設定、超過勤務手続きを見直し計画的な業務実施に努めた。諸会議議事要録を HP に掲載し情報共有を図った。
	19年度・計画	①引き続き、閲覧業務の省力化を図るため、図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）の予算要求を行い導入に努める。 ④適正文書処理を検討すると共に文書処理に係る内規の見直しを行い、事務の効率化を図る。 ⑤本館においては、デジタル情報の整備等に併せ、図書業務等の効率化・合理化を図るため、受入業務・目録業務との一元化事務分担等の可能性を検討する。 ⑥附属図書館業務の集約化を進める。
	19年度実施内容	①引き続き、閲覧業務の省力化・合理化を図るため、図書自動貸出返却システム（医学分館、北青葉山分館、農学分館）の導入経費の要求を行ったが、認められなかった。 ④「東北大学附属図書館等における文書の取扱いに関する内規」を制定し、適切な文書処理の改善に努めた。 ⑤電子ジャーナル、データベースに関する業務分担を見直し、業務の効率化、合理化を図った。 ⑥附属図書館業務の集約化について検討した。
	20年度・計画	①引き続き、閲覧業務の省力化を図るため、図書自動貸出返却システムの医学分館、北青葉山分館及び農学分館への新規導入に加え、本館への増設も含めた予算要求を行う。 ⑥附属図書館業務の集約化を進める。 ⑦各種統計データの活用による業務及びサービスの評価・改善を図る。 ⑧平成22年度の図書館情報処理システムの更新に向けて、専門委員会を設置し検討を開始する。
	達成度評価資料	・年次報告書
IV 財務内容の改善に関する目標 1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標 ○図書館における外部資金の確保と収益事業 科学研究費等（研究成果公開促進経費等）の確保及び図書館所蔵の貴重資料等を活用した収益事業を推進する。		
IV 財務内容の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館における外部資金の確保と収益事業に関する具体的目標の設定		
		年度計画
	16年度・計画	①和算関係文庫の電子化・データベース化を図るため、科学研究費等（研究成果公開促進経費等）の確保に努める。 ②狩野文庫のオンデマンド（受注生産）委託出版を開始する。
	16年度実施内容	①科学研究費の確保を実現した。 ②オンデマンド委託出版を実現した。
	17年度・計画	③事業収入の確保を図るため、貴重資料の高精細画像を多様なメディアで複製出版することに努める。
	17年度実施内容	①科学研究費の継続的な確保に努める。 ③複製出版を検討したが、事業収入が望める提携先出版社等が見つからないため引き続き検討することとした。
	18年度・計画	④「理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル」の冊子を市販する。
	18年度実施内容	①和算資料全文画像データベース作成のため科学研究費補助金を確保した。 ④図書「理・工・医・薬系学生のための学術情報探索マニュアル」を丸善より出版した。 ⑤企画展開催時に展示会の図録を委託販売した。

2 経費の抑制に関する目標 ○図書館における経費の抑制 学術資料の整備経費及び運営費等の抑制に努める。		⑥国立情報学研究所が募集した次世代学術コンテンツ共同構築事業に提案した委託事業が採択されたので、この経費により東北大学機関リポジトリ（TOUR）を構築した。
	19年度・計画	①科学研究費補助金の確保に努める。 ⑥引き続き、国立情報学研究所が募集した次世代学術コンテンツ共同構築事業経費の補助を受け「教育成果に重点をおいたりポジトリ構築事業」を推進する。 ⑦所蔵資料をモチーフとしたグッズを作成し、委託販売する。
	19年度実施内容	①科学研究費補助金の交付を受け、和算資料全文画像データベース化を推進した。 ⑥国立情報学研究所の次世代学術共同構築事業経費の交付を受け、「教育成果に重点をおいたりポジトリ構築支援事業」を推進し、コンテンツの拡充を行った。 ⑦附属図書館所蔵資料をモチーフにしてグッズを作成し、委託販売を開始した。
	20年度・計画	①科学研究費補助金の確保に努め、和算資料の画像データ作成を推進する。 ⑥引き続き、国立情報学研究所が募集した次世代学術コンテンツ共同構築事業の補助金確保に努め、東北大学機関リポジトリのコンテンツ拡充を推進する。 ⑦引き続き、所蔵資料をモチーフとしたグッズの委託販売を推進する。 ⑧貴重図書の撮影等についての料金規程を制定する。
	達成度評価資料	・年次報告書
	2 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館における経費の抑制に関する具体的目標の設定	
	年度計画	
	16年度・計画	①全学共同購入方式で整備する学術雑誌・電子ジャーナル・二次情報データベースの経費を抑制するため、資料の重複削減を推進する。 ②学術資料の高騰を抑制するため、他大学と学術資料購入に関するコンソーシアム活動を強化する。
	16年度実施内容	①学術情報整備検討委員会において、平成17年度にむけて、大学全体で電子ジャーナルが利用可能な学内重複雑誌については共同購入としてその購入経費を半額負担する制度の廃止を決定した。これにより重複調整済みの共同購入雑誌は1部のみとなる。 ②15の国立大学コンソーシアムに参加した。
	17年度・計画	③電気料及び空調運転経費を抑制するため、設置から30年を経る本館の空調設備の更新に努める。
	17年度実施内容	③総長裁量経費として要求し経費で、本館1号館の空調設備を更新し利用者への快適な学習環境を整備した。
	18年度実施内容	①学術雑誌の高騰に対応するために電子ジャーナルで利用できる冊子体雑誌の削減を実施し、経費の節約を図った。
	19年度・計画	①図書経費全体の見直しを更に設計し、経費節減を図る。 ④学術コンテンツ経費の全学的な基盤経費化を検討し、e-onlyの促進による学術雑誌の重複購入の一層の削減を図る。
	19年度実施内容	①図書経費全体の見直しを検討した。 ④平成20年度から学術コンテンツ整備のための全学的基盤経費が措置されることとなった。 ④e-only化の促進による学術雑誌経費の削減に努めた。
	20年度・計画	①図書経費全体の見直しを更に設計し、経費削減を図る。 ④引き続き、学術雑誌経費の節減に努める。

3 資産の運用管理の改善に関する目標 ○図書館における資産の運用管理の改善 図書館資産の効率的運用を推進する。	<table border="1"> <tr> <td>達成度評価資料</td><td>・年次報告書</td></tr> </table> 3 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館における資産の運用管理の改善に関する具体的目標の設定 <table border="1"> <tr> <td colspan="2">年度計画</td></tr> <tr> <td>20年度・計画</td><td>①本館のトータルサインシステム導入について検討を行う。【追加】 ②貴重図書保全のための資金を確保し、補修・レプリカ作成を行う。【追加】</td></tr> <tr> <td>達成度評価資料</td><td>・年次報告書</td></tr> </table>	達成度評価資料	・年次報告書	年度計画		20年度・計画	①本館のトータルサインシステム導入について検討を行う。【追加】 ②貴重図書保全のための資金を確保し、補修・レプリカ作成を行う。【追加】	達成度評価資料	・年次報告書												
達成度評価資料	・年次報告書																				
年度計画																					
20年度・計画	①本館のトータルサインシステム導入について検討を行う。【追加】 ②貴重図書保全のための資金を確保し、補修・レプリカ作成を行う。【追加】																				
達成度評価資料	・年次報告書																				
V 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 1 評価の充実に関する目標 ○図書館における評価の充実 図書館サービスに関する利用者アンケート及び自己点検評価、外部評価を実施する。 2 情報公開等に関する目標 ○図書館における情報公開等 図書館活動の情報を広く広報・公開する。	V 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標を達成するための措置 1 評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館における評価体制の充実に関する具体的目標の設定 <table border="1"> <tr> <td colspan="2">年度計画</td></tr> <tr> <td>18年度・計画</td><td>①利用者アンケート及び自己点検評価を実施する。</td></tr> <tr> <td>18年度実施内容</td><td>①利用者アンケート及び自己点検・評価により、自己点検・評価報告書を発行した。</td></tr> <tr> <td>19年度・計画</td><td>②外部評価を実施する。</td></tr> <tr> <td>19年度実施内容</td><td>②外部評価を実施、外部評価報告書をまとめた。</td></tr> <tr> <td>20年度・計画</td><td>③外部評価報告書に基づき、業務及びサービスの改善を図る。</td></tr> <tr> <td>達成度評価資料</td><td>・図書館自己点検・評価報告書、外部評価報告書</td></tr> </table> 2 情報公開等に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館における情報公開等に関する具体的目標の設定 <table border="1"> <tr> <td>19年度・計画</td><td>①広報活動の見直しを図る。</td></tr> <tr> <td>19年度実施内容</td><td>①項活動の見直しを行い、附属図書館のイメージキャラクターの募集を行った。</td></tr> <tr> <td>20年度・計画</td><td>①概要、年次報告等の広報資料及び広報手段としてのホームページの見直しを行う。</td></tr> </table>	年度計画		18年度・計画	①利用者アンケート及び自己点検評価を実施する。	18年度実施内容	①利用者アンケート及び自己点検・評価により、自己点検・評価報告書を発行した。	19年度・計画	②外部評価を実施する。	19年度実施内容	②外部評価を実施、外部評価報告書をまとめた。	20年度・計画	③外部評価報告書に基づき、業務及びサービスの改善を図る。	達成度評価資料	・図書館自己点検・評価報告書、外部評価報告書	19年度・計画	①広報活動の見直しを図る。	19年度実施内容	①項活動の見直しを行い、附属図書館のイメージキャラクターの募集を行った。	20年度・計画	①概要、年次報告等の広報資料及び広報手段としてのホームページの見直しを行う。
年度計画																					
18年度・計画	①利用者アンケート及び自己点検評価を実施する。																				
18年度実施内容	①利用者アンケート及び自己点検・評価により、自己点検・評価報告書を発行した。																				
19年度・計画	②外部評価を実施する。																				
19年度実施内容	②外部評価を実施、外部評価報告書をまとめた。																				
20年度・計画	③外部評価報告書に基づき、業務及びサービスの改善を図る。																				
達成度評価資料	・図書館自己点検・評価報告書、外部評価報告書																				
19年度・計画	①広報活動の見直しを図る。																				
19年度実施内容	①項活動の見直しを行い、附属図書館のイメージキャラクターの募集を行った。																				
20年度・計画	①概要、年次報告等の広報資料及び広報手段としてのホームページの見直しを行う。																				

VI その他業務運営に関する重要目標 1 施設設備の整備・活用等に関する目標 ○図書館の整備・活用等 本学の教育研究活動を支援するため、図書館施設の整備・活用等に努める。 2 安全管理に関する目標 ○図書館における安全管理 図書館における安全管理を徹底する。	VI その他業務運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1 施設設備の整備・活用等に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館の整備・活用等に関する具体的目標の設定 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年度計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度・計画</td><td>①片平地区の片平分館（仮称）設置構想に基づき、分館建設を推進する（地区附置研究所図書室の統合、ローライブラリー機能、市民との交流機能を統合的に提供する）。 ②図書館（本館・分館）の老朽化・狭隘化及び新たな図書館サービス（電子図書館化等）に対応するため、平成18年度を目標に建物の改修・増築計画を推進する。</td></tr> <tr> <td>16年度実施内容</td><td>①概算要求事項として提出した。 ②概算要求事項として提出した。</td></tr> <tr> <td>17年度実施内容</td><td>①概算要求事項として提出した。 ②概算要求事項として提出した。</td></tr> <tr> <td>18年度・計画</td><td>①概算要求事項として提出する。 ②概算要求事項として提出する。</td></tr> <tr> <td>18年度実施内容</td><td>②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出した。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を検討した。 ③理系図書館を含む3館構想とした。</td></tr> <tr> <td>19年度・計画</td><td>②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出する。 ②大型設備等の更新計画を検討する。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を具体化する。 ④既存図書館においてもラーニング・コモンズについて検討する。</td></tr> <tr> <td>19年度実施内容</td><td>②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出し、平成19年度補正予算で本館耐震改修工事が認められた。 ②大型設備の更新計画を検討した。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館の平面図、設備について検討した。 ④本館の増改築の検討の一環としてラーニング・コモンズについて検討した。</td></tr> <tr> <td>20年度計画</td><td>②本館の耐震改修工事を行う。 ②大型設備等の更新計画を検討する。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を具体化する。 ④既存図書館においてもラーニング・コモンズについて検討する。</td></tr> <tr> <td>達成度評価資料</td><td>・年次報告書</td></tr> </tbody> </table> 2 安全管理に関する目標を達成するためにとるべき措置 ○図書館における安全管理に関する具体的目標の設定 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年度計画</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16年度・計画</td><td>①本学の安全管理基準に基づき、図書館の安全対策マニュアルの作成、安全意識の徹底及び担当職員の配置など管理体制を整備する。</td></tr> <tr> <td>16年度実施内容</td><td>①安全衛生委員会及び本館防災委員会のもとで、火災を前提とした通報、消火及び避難誘導マニュアルを作成した。また、平成17年度総合防災訓練大綱が制定されたことから、再度このマニュアルの見直しを行うこととした。</td></tr> </tbody> </table>	年度計画		16年度・計画	①片平地区の片平分館（仮称）設置構想に基づき、分館建設を推進する（地区附置研究所図書室の統合、ローライブラリー機能、市民との交流機能を統合的に提供する）。 ②図書館（本館・分館）の老朽化・狭隘化及び新たな図書館サービス（電子図書館化等）に対応するため、平成18年度を目標に建物の改修・増築計画を推進する。	16年度実施内容	①概算要求事項として提出した。 ②概算要求事項として提出した。	17年度実施内容	①概算要求事項として提出した。 ②概算要求事項として提出した。	18年度・計画	①概算要求事項として提出する。 ②概算要求事項として提出する。	18年度実施内容	②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出した。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を検討した。 ③理系図書館を含む3館構想とした。	19年度・計画	②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出する。 ②大型設備等の更新計画を検討する。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を具体化する。 ④既存図書館においてもラーニング・コモンズについて検討する。	19年度実施内容	②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出し、平成19年度補正予算で本館耐震改修工事が認められた。 ②大型設備の更新計画を検討した。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館の平面図、設備について検討した。 ④本館の増改築の検討の一環としてラーニング・コモンズについて検討した。	20年度計画	②本館の耐震改修工事を行う。 ②大型設備等の更新計画を検討する。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を具体化する。 ④既存図書館においてもラーニング・コモンズについて検討する。	達成度評価資料	・年次報告書	年度計画		16年度・計画	①本学の安全管理基準に基づき、図書館の安全対策マニュアルの作成、安全意識の徹底及び担当職員の配置など管理体制を整備する。	16年度実施内容	①安全衛生委員会及び本館防災委員会のもとで、火災を前提とした通報、消火及び避難誘導マニュアルを作成した。また、平成17年度総合防災訓練大綱が制定されたことから、再度このマニュアルの見直しを行うこととした。
年度計画																											
16年度・計画	①片平地区の片平分館（仮称）設置構想に基づき、分館建設を推進する（地区附置研究所図書室の統合、ローライブラリー機能、市民との交流機能を統合的に提供する）。 ②図書館（本館・分館）の老朽化・狭隘化及び新たな図書館サービス（電子図書館化等）に対応するため、平成18年度を目標に建物の改修・増築計画を推進する。																										
16年度実施内容	①概算要求事項として提出した。 ②概算要求事項として提出した。																										
17年度実施内容	①概算要求事項として提出した。 ②概算要求事項として提出した。																										
18年度・計画	①概算要求事項として提出する。 ②概算要求事項として提出する。																										
18年度実施内容	②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出した。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を検討した。 ③理系図書館を含む3館構想とした。																										
19年度・計画	②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出する。 ②大型設備等の更新計画を検討する。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を具体化する。 ④既存図書館においてもラーニング・コモンズについて検討する。																										
19年度実施内容	②本館の改修・増築計画を概算要求事項として提出し、平成19年度補正予算で本館耐震改修工事が認められた。 ②大型設備の更新計画を検討した。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館の平面図、設備について検討した。 ④本館の増改築の検討の一環としてラーニング・コモンズについて検討した。																										
20年度計画	②本館の耐震改修工事を行う。 ②大型設備等の更新計画を検討する。 ③青葉山新キャンパスに設置する理系図書館構想を具体化する。 ④既存図書館においてもラーニング・コモンズについて検討する。																										
達成度評価資料	・年次報告書																										
年度計画																											
16年度・計画	①本学の安全管理基準に基づき、図書館の安全対策マニュアルの作成、安全意識の徹底及び担当職員の配置など管理体制を整備する。																										
16年度実施内容	①安全衛生委員会及び本館防災委員会のもとで、火災を前提とした通報、消火及び避難誘導マニュアルを作成した。また、平成17年度総合防災訓練大綱が制定されたことから、再度このマニュアルの見直しを行うこととした。																										

	17年度実施内容	①自由閲覧室及び学生閲覧室に防犯カメラを設置した。
	18年度実施内容	②地震等の災害対策経費を総長裁量経費として要求した。
	19年度・計画	①一般公開施設の拡充とセキュリティ環境を整備するため防犯カメラ設置個所の拡充に努める。 ①安全衛生管理者の育成・確保に努める。 ②地震等の災害対策経費を総長裁量経費として要求する。
	19年度・実施内容	①防犯カメラ設置経費を総長裁量経費として要求したが、認められなかった。 ①職員が資格を取得し、安全衛生管理者となった。 ②地震等の災害対策経費を総長裁量経費として要求したが、認められなかった。
	20年度・計画	①一般公開の拡充を図るため、閲覧スペースについて防犯カメラ設置箇所の拡充に努める。 ②地震等の災害対策経費を総長裁量経費として要求する。 ③災害対策規程を策定する。
	達成度評価資料	・年次報告書



本館	〒980-8576	仙台市青葉区川内27-1
医学分館	〒980-8575	仙台市青葉区星陵町1-1
北青葉山分館	〒980-8578	仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
工学分館	〒980-8579	仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-03
農学分館	〒981-8555	仙台市青葉区堤通雨宮町1-1

平成19年度 東北大学附属図書館年次報告

平成22年2月発行

編集・発行 東北大学附属図書館
〒980-8576 仙台市青葉区川内2-7番1号
TEL (022)795-5911
FAX (022)795-5909
